

植調

第38巻第12号



ケチヨウセンアサガオ(アメリカチヨウセンアサガオ)の種子(*Datura meteloides* Dunal)長さ5mm

財団法人 日本植物調節剤研究協会編

中期・一発処理剤の効果安定につながる、 初期除草の定番！

水田用初期除草剤

初 **ベクサー**® **フロアブル**
1キロ粒剤

特 長

- 発生前～始期の使用で、後に使用する中期剤・一発処理剤の効果をさらに安定させます。
- すぐれた経済性で、低コスト稲作に貢献できます。
- 人畜・水産動物・環境に低毒性です。

©科研製薬(株)登録商標

JAグループ
農 協 | 全 農 | 経済連

三井東圧農薬株式会社
東京都中央区日本橋1-12-8

抵抗性雑草*も、田植同時におまかせ！

抵抗性
ホタルイに！

抵抗性
アゼナ類に！

抵抗性
コナギに！

抵抗性雑草に効く、田植同時処理除草剤

バイエル

イナバー® **DX**
1キロ粒剤



- 田植後に行っていた従来の除草作業が省略できます。
- 田植同時散粒機で均一散布が可能。安定した効果が期待できます。
- 田植と同時に除草剤散布が完了。散布適期を逃しません。

®は登録商標

*抵抗性雑草とは？ 多くの水稲用除草剤に含まれるSU剤(スルホニルウレア系除草剤)に、抵抗性を持つ雑草のことを「SU抵抗性雑草」と呼んでいます。

- 使用前にはラベルをよく読んで下さい。
- ラベル記載以外には使用しないで下さい。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



Bayer CropScience

バイエルクロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
www.bayercropscience.co.jp



巻頭言



食育を支える農業技術の開発を

(財) 日本植物調節剤研究協会 評議員
(財) 日本植物調節剤研究協会 東海支部長

生杉佳弘

ある日の朝、「食育基本法が今年度中にも成立」との新聞記事を目にした。テレビでは毎日のように料理番組が放映されているし、飽食の時代とかグルメ旅行という言葉を目にしてから久しい。その一方で、糖尿病に代表されるいわゆる生活習慣病が増加したり、親子揃っての食事が一週間に一回しかない家庭が25%といわれる孤食が当り前の生活になってしまっている。

昔から、子供を育てるには、知育、徳育、体育が大切だといわれてきた。広辞苑をひもとくと、「知育とは、知的認識能力を高めることを目的とする教育。徳育とは、道德面の教育。体育とは、健全な身体の発達を促し、運動能力や健康で安全な生活を営む能力を育成し人間性を豊かにすることを目的とする教育」と記されている。今、これらの「三育」に加えて、「食育」が重要だと言われる時代を迎えている。

昨今の学校では、地域の農家が栽培した野菜を給食に取り入れたり、総合学習の時間を利用して、生徒自ら摘んだ茶葉から番茶を作ったり、大豆を栽培して味噌を仕込む学校もあるそうだ。子供自らが参画する体験型学習は地域農家の協力の上に成り立っており、発案する人とそれを支持し協力する人々がいて可能となる。いずれの取り組みも、食の大切さ、その食の素材を産出している農業の大切さを将来の日本を背負う子供達に身をもって理解してほしいと願う人達によって行われている。

BSE問題や農畜産物の不正表示事件に端を発した「消費者の食への不信任」は、流通・販売段階に止まらず、食材を生産している農業そのものへの不信任に繋がり、農業者に対しても嘗てないほどの責任と役割を求める声が強い。

そして今や、食に始まった「安全・安心の確保」という言葉は、農業内に止まらず社会の様々な場面で使われるキーワードとなってしまった。

失った信頼を回復するための試みとして始まった牛肉のトレーサビリティシステムの構築は、野菜や茶、果樹等における生産履歴の記載と開示を促進し、更には日本人の主食である米の生産流通管理システムへの国際規格ISO導入にも発展しようとしている。これらの取り組みは、いずれも農業内に止まっていた情報を外部の人々に積極的に公開しようとの考え方が基本にあり、農と食との距離を狭めようとする取り組みでもある。

戦後日本の稲作技術は、耕耘、田植え、収穫作業の機械化によって大幅に省力化され大きく変貌した。除草剤開発の歴史を振り返ってみても、対象草種の拡大や除草効果の向上は元より、毒性の軽減、散布薬量の低減、更には剤型の多様化等、目覚ましい技術開発が行われ生産現場に寄与してきた。そして、農業者はトラクター、田植機、コンバイン等の農業機械や除草剤の開発により重労働であった農作業から開放された。しかしながら、これらを初めとして多くの新技術導入の評価は農業内のみに止まり、外部者へのアプローチや積極的な情報発信には心を砕いてこなかった感は否めない。

21世紀の農業技術は、農業者のためばかりではなく、国民に理解され支持される科学技術として、また、知育、徳育、体育に肩を並べる「食育の教材」として、将来の日本、更には次代の地球を担う子供たちに積極的に多くの事柄を語りかけ、教え、考えさせ得る役割を果たしてほしいと願う昨今である。

目 次

(第 38 卷 第 12 号)

巻 頭 言 食育を支える農業技術の開発を…………… 1 ＜(財)日本植物調節剤研究協会 評議員 (財)日本植物調節剤研究協会 東海支部長 生杉佳弘＞ 農業のもつ多面的機能と政策課題…………… 3 ＜九州大学大学院農学研究院 助教授 矢部光保＞ 田植機を利用したマット式水稻湛水直播栽培……………11 ＜山口県農業試験場 栽培技術部 桑原恵利・鳥居俊夫＞	平成 16 年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験 成績概要……………18 ＜(財)日本植物調節剤研究協会 技術部＞ 平成 16 年度春夏作野菜花き関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要……………27 ＜(財)日本植物調節剤研究協会 技術部＞ 平成 16 年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤 試験成績概要……………38 ＜(財)日本植物調節剤研究協会 技術部＞ 平成 16 年度牧野草地関係除草剤・生育調節剤 試験成績概要……………46 ＜(財)日本植物調節剤研究協会 技術部＞
---	--

よりよい農業生産のために。三共アグロの農薬



●時代先どり、ジャンボな省力
投げ込むだけの一発処理除草剤

クサトリエース[®] Hジャンボ[®]
Lジャンボ[®]

●効きめの長〜い
初・中期一発処理除草剤

ラクダー[®]
Hフロアブル・Lフロアブル

●効きめの長〜い
初・中期一発処理除草剤!!

ラクダー[®]プロ
フロアブル・Lフロアブル・1キロ粒剤75/51

●三共の優れた製剤技術から生まれた
グリホサート液剤

三共の草枯らし[®]

●移植前後に使える
初期除草剤

シング[®]乳剤

●SU抵抗性雑草(ホタルイ等)に3成分で効果がある
投げ込み型一発処理除草剤

クサトリ[®]DX ジャンボ[®]H
ジャンボ[®]L

●ノビエ3.5葉期まで使える
新しい中期除草剤

ザーバックス[®]DX 1キロ粒剤

●使いやすい
初期一発処理除草剤

ミスラッシャ[®]粒剤
共 1キロ粒剤

●SU抵抗性の
アゼナ・ホタルイに!

クサコント[®]フロアブル

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。



三共アグロ株式会社
SANKYO 〒113-0033 東京都文京区本郷4-23-14
<http://www.sankyo-agro.com/>

農業のもつ多面的機能と政策課題

九州大学大学院農学研究院 助教授 矢部光保

1. はじめに

我が国における環境問題の顕在化や農林水産業の国際競争力の低下とともに、農林水産業がもつ多面的機能(multifunctionality)に多くの関心が寄せられるようになってきている。農業分野では、「中山間地域等直接支払制度」が2000年度から5年間の期限として導入され、多面的機能の維持・発揮に貢献している中山間地域等の農業者らに対して直接支払いが行われ、最終年度を迎えた2004年には、その継続実施が決定された。また、林業分野では、2002年度に森林の多面的機能の発揮を目指して「森林整備地域活動支援交付金」制度が施行され、森林整備主体への直接支払いが行われるようになった。さらに、水産分野でも、漁業・漁村のもつ多面的機能のうち、離島の漁業者が外国の密漁船や不審船を見張る「国境監視」機能について、水産庁はこれを重視し、離島の漁業者集落に対し2005年度から直接支払い制度の導入を検討している。このように、多面的機能を考慮した農林水産政策が具体的に展開してきている。

それでは、農林水産業のもつ多面的機能とは、どのような機能を指すのであろうか。多面的機能の定義や内容については、必ずしも統一した見解があるわけではなく、国や機関、時代や論者によって、少なからず異なっている。そこで、日本学術会議による2つ答申から見ていこう。

まず、日本学術会議(2001)では、農業のもつ多面的機能について、①持続的食料供給が国民に与える将来に対する安心、②農業的土地利用が物質循環系を補完することによる環境への貢献、③生産・生活空間の一体性と地域社会の形成・維持のように大きく3つに分類した後、詳しく諸機能を挙げている。また、同答申に基づき森林について見ると、その機能は、①生物多様性保全、②地球環境保全、③土砂災害防止／土壌保全、④水源涵養、⑤快適環境形成、⑥保健・リクレーション、⑦文化、⑧物質生産として8つに分類されている。

このように、農業の多面的機能として、「①持続的食料供給が国民に与える将来に対する安心」についても掲げられ、食料安全保障はもとより新鮮・安全な食料を供給するなど農業の本来の機能も含められている。また、森林の場合(林業とは言っていない)には、「多面的機能」とともに「多面的な機能」という言葉が併用され、木材、食料、工業原料、工芸材料等の供給を行う林業本来の機能が「⑧物質生産」として、森林の「多面的な機能」の一部に含まれている。

さらに、水産業と漁村の多面的機能については、今年公表された日本学術会議(2004)では、OECD等で議論されている「多面的機能」の概念とは区別する意味で「多面的な機能」という用語を使う旨、明記してある。そして、①食料・

資源の供給, ②自然環境保全, ③地域社会の形成・維持, ④国民の生命財産保全, ⑤居住や交流の場の提供, という機能を挙げている。特に、「①食料・資源の供給」においては, 新鮮安全な食料を安定的に国民に供給するという水産業の本来機能を, 「多面的な機能」の一部として挙げている。

このように, 日本学術会議では, 多面的機能の中に, 農林水産業の本来機能を含めている。他方, OECDにおける議論では, 少なくとも, 農業の本来機能は多面的機能の中に含まれていない。それでは, なぜこのような違いが生じたのであろうか。

一つの理由として, 農業のもつ多面的機能について, OECDでは, WTO交渉を明確に意図して, 農業生産に付随した機能であり, 農業生産との関連の中でいかに保全するかという視点から厳しい論争が展開されてきたことが挙げられる。これに対し, 日本学術会議による多面的機能の答申では, 国際交渉よりも, 農業・森林・水産業が有する文字通り「多面的」な機能という視点から議論がなされたために, 本来機能が「多面的な機能」の一部として認識されたのではなかろうか。

いずれにせよ, 多面的機能の定義や内容は, 自然的文化的背景によって異なっている。そこで, まず, 我が国と欧州における多面的機能論とその強調点の違いを眺めた後, 厳密な経済学的概念に基づいたOECDの議論に依拠しながら, 以下, 農業の多面的機能に関する政策課題について検討していきたい。

2. 多面的機能の日欧比較

我が国のようにアジアモンスーンに属する国では, 豊かな水は稲作に不可欠のものである反

面, 台風や一時期に集中した降雨は多くの自然災害を招くもとになる。そのため, 水田のもつ水源涵養機能や国土保全機能について, 国民は重要な機能と考えているのである。

少しデータは古くなるが, 吉田(1999)が行ったアンケート調査によれば, 中山間地のもつ多面的機能のうちどの機能が重要と考えるかという質問に対し, 重複回答を含め, 「国土保全」を挙げた割合は74.8%と最も多く, 次いで「生物・生態系保全」が69.7%, 「水資源涵養」は67.6%であったのに対し, 「伝統文化の保存」は41.5%, 「アメニティー提供」は37.5%であった。中山間地の場合は特にそうであるが, 急峻な地形と多雨の気候条件を反映して, 国土保全や水源涵養といった機能が重視される傾向にあると言えよう。さらに, 供給力ロリーベースで食料の自給率は40%という社会経済的条件のために, 食料の安全保障機能も, 我が国の多面的機能として重視される。

これに対し, 欧州諸国においては, 年間降水量は我が国の半分程であり, 国土の50%~70%を農地として利用し, 飲み水の多くを地下水に依存するため, 農業がもつプラスの影響とともに, 地下水汚染など環境に及ぼすマイナスの影響も顕在化しやすかった。他方, 長年の人間の営みから作り出された文化的景観や生物多様性に関する保全意識の高さは, その美しい文化的農村景観の中に十分に見てとることができる。また, 過剰農産物に悩み, 輸出補助金による農業維持を行ってきたEU諸国では, 食料の安全保障機能を多面的機能の重要な要素として主張することは少ない。さらに, 欧州諸国の特徴として, 家禽や家畜に対する動物愛護の精神が高いことも特徴である(横川(1999)など参照)。

3. 多面的機能の定義

このような中、自由貿易経済のあり方を議論するOECDでは、多面的機能に対し経済学的概念を用いて以下のような定義を与えている（OECD (2001a)）。まず、定義の第一は結合性である。例えば、伝統的な農村景観、水田の洪水防止機能や水源涵養機能などは、農業生産と密接不可分に提供されている。つまり、農業は、市場で売買される商品（commodity）としての農産物と、美しい景観など市場で売買されることのない「非商品（non-commodity）」を同時に供給しているのである（注1）。

その第2は外部性である。例えば、美しい棚田の景観は車窓から楽しむことができるし、水田によって涵養された地下水は河川等に流れ込み、人々はその水を利用している。このように、市場を経由しないで人々の効用や企業の生産活動に直接影響を与えることが外部性であり、その中で好ましい効果は、特に外部経済効果と呼ばれている。農業のもつプラスの外部性が、多面的機能なのである。

ところで、多面的機能には市場が成立していない。その理由は第3の定義である、公共財的性質と関連している。この公共財的性質には2つの側面がある。まず、供給面からは、対価を支払わない人に対しても、その利用が排除できないという非排除性が挙げられる。例えば、棚田景観はお金を支払わなくとも、その景観を楽しむことができるために、非排除性が存在するのである。もちろん、棚田や伝統的農村の景観を高い塀で囲って入場料を徴収することも技術的には可能であるが、収益よりもはるかに徴収費用が大きいために、経済的に利用が排除できないのである。そのため、市場が成立せず、多面的機能が無償で提供されてきたのであり、無

償であるために意図的な供給が図られてこなかったのである。したがって、多面的機能の供給を維持するためには、公的機関の介入が必要となってくる。

また、公共財的性質のもう一つの側面として、需要面から、全員が同時に同じだけ消費できるという非競合性が挙げられる。例えば、リングは、ある人が食べてしまうと、他の人は食べることが出来ないが、棚田景観は同時に多くの人が見て楽しむことができる。また、洪水防止機能については、流域の人々に広くその効果が及ぶのである。さらに、一人に機能を供給できれば、それ以外の人への追加的供給費用はゼロである。このような点も多面的機能の供給に対する公的支援の論拠となっている。

以上のような理由から、多面的機能の適切な供給のために国や地方自治体などが積極的に関与することが重要になってくる。そのため、OECDでは、多面的機能に基づく市場介入の条件を巡って、多く議論が重ねられてきた。

4. 多面的機能に係わる市場介入の条件

農産物の輸入国は、農政改革や貿易自由化によって多面的機能も減少するので、生産とリンクした多面的機能の支持が必要と主張してきた。これに対し、輸出国は、多面的機能の存在は理解できるが、生産にリンクした政策手法ではなく、生産と完全に切り離された政策でも多面的機能の維持は可能であるとしている。

そこで、OECDでは、多面的機能のために政府が農業支持を行う条件を明らかにしようとした。それが、前述の多面的機能の定義に関連した、次の3つの質問である。

質問1：農産物（商品）と多面的機能（非商品）の間に切り離すことできない強力な結合性が存

在するか。

質問2：多面的機能（非商品）に関連して市場の失敗が存在するか。

質問3：新たな市場の創設など政府以外による措置が試みられたか。

そして、これら「3つの質問」に全て「Yes」であれば、政府の介入が正当化されることになる。そのため、各政府が重要と思う機能を多面的機能として主張した上で、いかにこの3つの質問に答えるが、多面的機能の議論における主要な関心事となった。

そこで、これらの質問について、もう少し説明しておこう。質問1について、多面的機能（非商品）と農産物（商品）の間に結合性がなければ、多面的機能は農業生産と切り離して供給し、農産物は輸入すればよいことになる。例えば、洪水防止機能が重要であるならば、水田に高い畦だけ作って洪水に備え、安い米を輸入する中で、最も効率的な政策を見出せばよいことになる。したがって、結合性の存在は、多面的機能を関連づけた農業生産への政府介入の条件となるのである。

質問2は、たとえ非商品と農産物の間に結合性があるとしても、市場の失敗が存在すれば、多面的機能の価値が適切に市場機構の中に取り込まれないことになる。したがって、別途、多面的機能の価値を評価し、米の輸入にともなう便益の増加分と、生産削減による多面的機能の喪失分とを比較した上で、前者の方が後者よりも小さいならば、政府介入の条件となるのである。その意味で、多面的機能や農業汚染に関する経済評価は重要な研究課題となる。

質問3は、公共財的性質に関連するものであり、政府等が多面的機能の維持のために介入する前に、まずは、新たな市場の創設やボランティア

活動等によって多面的機能の維持を図るべき、というものである。例えば、棚田基金の創設やNPO等による支援活動がこれにあたる。そして、このような支援がない場合にのみ、政府が介入してよいことになる。

以上のような多面的機能に関する概念分析は、OECD(2001a)『多面的機能：分析的枠組みに向けて』にまとめられ、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語そして日本語の6カ国語に翻訳されている。

さて、OECDでは、この概念分析のフレームワークに基づき、2001年1月からこの「3つの質問」について既存データによる実証分析を試みた。参加した国は、多面的機能に肯定的な日本や韓国、スイスやEU諸国だけでなく、多面的機能に否定的なアメリカやオーストラリアなども参加し、17カ国を対象に共通のフレームワークで分析が行われた。そして、同年7月にOECD多面的機能ワークショップがパリで開催された(OECD(2001b))。

また、これと平行する形で「農村アメニティーの価値：公共財、非市場財と外部性への対処」という農村アメニティーの需要計測に関するワークショップが2000年6月にワシントンD.C.でUSDAとOECDの共催で開催され、筆者もコメンテーターとして参加した(矢部(2000)参照)。

このような概念分析と実証分析の議論を経て、政策レポートが準備された。そこで、OECD(2002)を簡略にまとめた荘林(2003)に依拠しながら、多面的機能の政策措置を考える上で、特に重要な結合性に関する「質問1」のガイドラインを中心に、筆者のコメントも交え概観しよう。

5. 多面的機能の政策レポートとガイドライン

多面的機能の結合性について、いかに把握す

るのか。荏林（2003）では、多面的機能の維持・発揮に向けた政策ガイドラインを示している。

その第1ステップとして、「地理的単位」の決定を挙げている。確かに、対象地域が大き過ぎると多面的機能のもつ地域固有性が適切に把握できず、小さ過ぎると統計データが使えないという問題が生じるし、政策単位としても県か市町村か判断に迷うところがある。他方洪水防止や水源涵養については流域単位が、食料安全保障であれば国単位が、有効であると思う。このような理由から、筆者は、機能ごとに、政策実施の効率性を考慮しながら、適切な地理的単位を考えていく必要があると考える。

第2ステップとして、プラスの外部性である多面的機能とマイナスのそれである農業汚染の実態を列挙することが述べられている。一般に、両者を区別するものは基準点(reference level)と呼ばれ、基準点を満足する農法が優良農業規範(good agricultural practice)と言われている。そして、基準点までの環境水準は、汚染者負担原則に従って農家負担で達成し、それを超えた外部性の提供が、補助金の対象になるというものである。今日、自然条件等の地域特性や機能の性質に応じて、基準点と優良農業規範を決定することが重要な検討課題となっている。

第3ステップとして、機能ごとに結合性の性格を分析することが挙げられている。例えば、農産物の生産量の増加にしたがって機能が比例的に向上するのは食料安全保障くらいで、農産物の生産量が多いからといって多面的機能の供給量は必ずしも高くなるものではない。このことは、洪水防止機能の供給量が米の反収よりも畦の高さに依存していることを考えると分かりやすいであろう。したがって、筆者は、洪水防止機能を維持するのであれば、農地面積、畦や

水の管理の状況を勘案して支援することがより望ましいと考える。

第4ステップとして、農業生産と多面的機能(非商品)の「切り離し費用」について論じている。この切り離し費用とは、農産物と「非商品」を別々に供給するための政策オプションを考え、その最も安い費用で定義されるものである。例えば、洪水防止機能の場合であれば、①非農業的供給(ダム建設費)、②農産物の生産を行わないで供給(畦の維持管理費用)、③農法を変更して供給する場合を比較し、最小の費用を求めるのである。そして、洪水防止機能の便益は一定としたとき、農産物の輸入による便益の方が切り離し費用より大きい場合には、農産物を輸入し、多面的機能は別途供給する方が効率的となる。ただし、多様な役割を農業は持っているため、次のステップとして「範囲の経済」の考え方が必要となってくる。

第5のステップに挙げられた「範囲の経済」とは、複数の生産物を生み出す場合、それらの間に共通の生産要素を複数の生産過程で利用することにより、総体としての費用を低減させる考え方を指す(注2)。仮に、「範囲の経済」が存在しないならば、米をある程度輸入し、多面的機能を別途供給する場合、その便益は、「米の輸入による社会的余剰+別途供給された各機能の便益-各機能の切り離し費用」で表される。

他方、「範囲の経済」を考慮するならば、米と多面的機能を同時に国内で供給した場合の便益は、「①(米の国内生産による社会的余剰)+②(多面的機能による便益-そのための最小政策費用)」で表される。したがって、①の余剰の増加分が、②の純便益の減少分とちょうど等しくなるまで、米を輸入し、その残りは国内で生産することが、最も効率的な多面的機能と

農産物の供給条件となるのである。

このように、多面的機能を考慮したうえで、いかに農業政策に反映させるかについて、詳しく論じられている。

6. 我が国における多面的機能の意義と政策課題

ここまでは、OECDにおける議論を中心に眺めてきた。その議論は、米国や豪州など農業を工業など他産業と同一視する農産物輸出国グループと、農業のもつ環境保全機能や地域雇用の維持など多面的機能に配慮した農業改革を進める我が国やEUなど多面的機能を重視する国との協議の場から出来上がってきたものであった。

しかし、EUは、すでに1992年の共通農業政策（CAP）改革以来、段階的に域内支持価格を引き下げて国境措置への依存を低下させ、財政による直接支払いによって農家への所得補償を行ってきた。さらに、2004年5月にはEUがこれまで行っていた輸出補助金の撤廃計画を表明した。このEUの方針変更は、米等に高率関税を課して国内農業を守ろうとする我が国よりも、EUがアメリカにさらに近くなったことを意味する。

このような中であって、現在進行中のWTO交渉においても、OECDの多面的機能の政策レポートの議論をふまえ、多面的機能を農業協定に反映させていけないものであろうか。その場合、多面的機能の維持あたっては、機能ごとに適切な政策手法を用いていくことが重要と考える。例えば、表－1に示すように、食料安全保障機能や洪水防止機能のように農産物や農地の量的・面的維持が重要な機能の保持にあたっては、関税による価格支持が、行政費用の少なさとあいまって、効率的な政策の側面を持つと言えよ

表－1 多面的機能の維持・発揮のための政策手法

多面的機能の種類	国境措置 (量的維持)	環境支払い (質的改善)
食料安全保障	○	
国土保全（洪水防止・土砂崩壊防止）	○	
環境保全（水源涵養・大気浄化・気候緩和・有機物分解）	○	
景観形成・生物多様性		○
地域社会の維持活性化・ 伝統文化の継承		○
保健休養・環境教育		○

注：○はより効率的な政策手法と思われるもの

う。他方、生物多様性や景観保全等の機能については、農法の質的選択が決定的に重要となってくるから、優良農業行為と関連づけた直接支払い制度の採用がより望ましいであろう。そこで、幾つか論点を整理しておきたい。

第1は、多様な自然条件と社会条件の上に成り立つ多面的機能について、対象となる機能とその機能を発揮させる取り組みをどう特定化し、かつ取り組みに対する支払い単価をいかに設定するかという問題がある。例えば、生物多様性の向上のために、農薬や肥料を削減する状況を想定して見よう。仮に、除草剤を50%削減する取り組みを考えた場合、冷涼少雨の北日本の方が、温暖多雨の南西日本よりも導入が容易と思われる。そのため、取り組みの難易度に差がある場合、単価の地域間調整という問題が生じるだろう。さらに、地域・地帯ごとに動植物層が異なるため、目標とすべき保全水準を、地域・地帯毎にどう設定し、達成度をどう評価するのかという問題も考慮しなければならない。

第2に、誰に対して支払うのかという問題がある。取り組みに参加した農家に支払うのは基本であるが、経営面積が小さい我が国農家の場

合、面的な広がりや集落の協力があって初めて、有効に発揮される機能がある。例えば、農村景観の維持となると、集落やまとまった農地を対象とする方が望ましいであろう。ホタルや魚等の生息地の保全については、農薬削減を含め面的な取り組みがないと、取り組みの実効性が上がらないと考えられる。

第3に、取り組みが適切に行われている否かをいかに確認するかという問題がある。例えば、肥料・農薬等の投入資材の削減を、帳簿の提出を含め、どうモニタリングするのか。加えて、適切な取り組みが行われなかった場合に、どのようなペナルティーを科すのかなど、我が国の実情に応じた費用対効果の高い行政手法が必要となる。

最後になったが、EUでは、CAP改革の一環として「農村開発計画」を導入し、環境負荷を低減する農法をはじめ、景観や歴史的価値の保全に資する農法や耕作放棄地の維持管理等を行う農家に対する助成制度を実施してきている。我が国でも、EUの事例を参考にしつつ、多面的機能を発揮しつつ農村振興を図る方策を具体的に考える段階にきていると思われる。その場合、多面的機能に対して助成を行うためには、多面的機能の有用性に対する十分な説明と可能な限りの計量的評価、そして何より優良農業規範を超えた農法を農家が自ら選択していくことが肝要と考える。

(注1) 多面的機能と言うと各機能を思い浮かべるわが国とは異なり、OECDでmultifunctionalityと言えば、「多面的機能を有している状態」を指すのである。

(2) この「範囲の経済」は「規模の経済」と対になる考え方であり、「規模の経済」は大

量生産がコスト低減につながるという考え方である。

<引用文献>

OECD(2001a) Multifunctionality: Toward an Analytical Framework. (経済協力開発機構／荳林幹太郎『農業の多面的機能－政策形成に向けて－』家の光協会、2004年7月)。

OECD(2001b) Multifunctionality: Applying the OECD Analytical Framework Guiding Policy Design, Workshop on Multifunctionality, Paris, 2-3 July 2001 (<http://www1.oecd.org/agr/mf/> 2004年9月22日にアクセス)。

OECD (2002) Multifunctionality: The Policy Implication, AGR/CA/APM(2002)10/FINAL.

日本学術会議(2001)『地球環境・人間生活にかかわる農業及び漁村の多面的な機能評価について(答申)』。

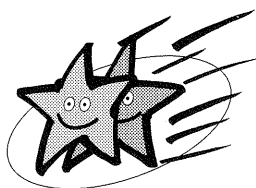
日本学術会議(2004)『地球環境・人間生活にかかわる水産業及び農村の多面的な機能の内容及び評価について(答申)』。

荳林幹太郎(2003)『OECD農業の多面的機能政策レポート－いかなる場合にいかなる政策が必要か?－』日本農業土木総合研究所。

矢部光保(2000)「多面的機能のモデル化と需要の計測－現状と政策措置への含意」『農業構造問題研究』No.206, 94-134ページ。

吉田謙太郎(1999)「CVMによる中山間地域農業・農村の公益的機能評価」『農業総合研究』53(1), 45-87ページ。

横川洋(1999)「先進国の農業・農村環境政策」嘉田・西尾監修『農業と環境問題』農林統計協会, 151-189ページ。



水田一発処理除草剤

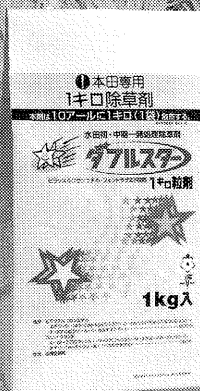
ダブルスター®

**1キロ粒剤
ジャンボ
顆粒**

ピラゾスルフロンエチル・フェントラザミド 含有

3つの剤型で水田除草革命宣言

あなたは、どのダブルスター？



顆粒

1キロ粒剤

ジャンボ

特長

1.高い除草効果

ノビエなどの一年生雑草から、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリなどの多年生雑草に高い効果を示します。

2.問題の一年生雑草にも有効

最近問題となっている、アメリカアゼナやアゼトウガラシ等の一年生広葉雑草やタウコギ等のキク科雑草に対しても、発生前～発生初期の処理で高い効果を示します。

3.ゆとりのある使用時期

移植後5日から、ノビエ2.5葉期（ジャンボは2葉期）まで、長い期間にわたって使用できます。田植後、ゆとりをもって散布ができます。

4.長い残効性

各種雑草に対して通常40～50日間の残効が期待できます。特にノビエに対する残効性に優れた剤ですので、ノビエの発生が問題となる寒冷地においても十分な効果を保ちます。

5.水稲に対する優れた選択性

水稲に対して選択性が高いので、通常の水田条件下では安心して使用できます。

ダブルスター協議会

バイエル クロップサイエンス(株)/日産化学工業(株)

〈事務局〉日産化学工業株式会社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 (興和一橋ビル)

田植機を利用したマット式水稻湛水直播栽培

山口県農業試験場 栽培技術部 桑原恵利※・鳥居俊夫

1 はじめに

水稻直播栽培は、近年、増加の一途を辿っており平成15年度の実施面積は全国で13,000haに達しており、特に湛水直播栽培での増加が著しい。この要因としては、過酸化カルシウム粉粒剤の利用、落水出芽法の確立や高精度条播機・代かき同時土中点播機の開発等により、良食味品種での出芽・苗立ちの安定化と耐倒伏性の向上が図られたことによるところが大きい。

しかし、米を巡る厳しい情勢下では、水稻栽培の省力・低コスト化のための直播栽培の意義は認められるものの、専用直播機の利用では新たな初期投資が必要となることから、その導入には消極的にならざるを得ない現状もある。

そこで、山口県農業試験場では、広範に普及している「田植機」を水稻湛水直播機として汎用利用し、初期投資が少なく、田植感覚で手軽に取り組める水稻湛水直播システム（マット式水稻湛水直播システム）を開発し、関係機械・資材メーカーと連携して、この栽培技術の確立に取り組んでいる。

2 マット式湛水直播システムの特徴

当システムは、マットの表層にカルパーコーティングした催芽種子を圧入埋設して「種子マット」を作成し、これを田植機の苗載台に搭載し、田植機の植え付け機構を利用して、種子マット

をブロック状にかき取りながら田面に押し込み

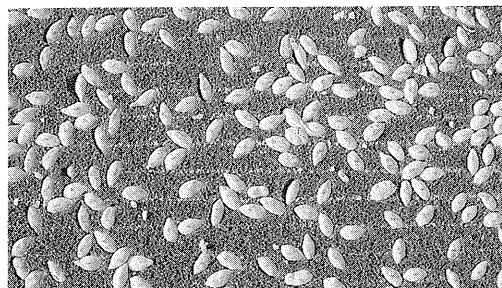
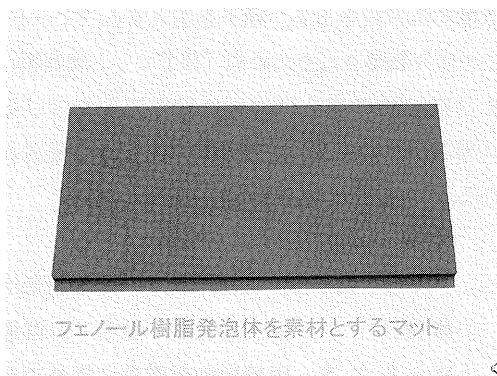


写真-1 種子マット



写真-2 直播専用かき取り爪

※現 山口県農林部経営普及課

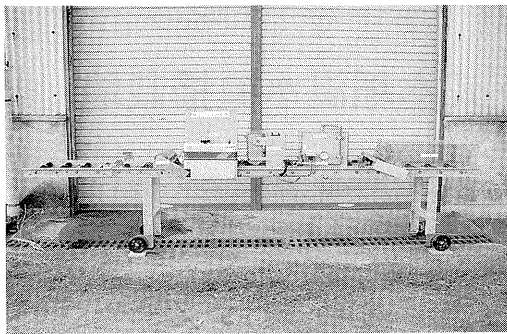


写真-3 種子マット調製機

点播する方式をとる。種子を圧入する「マット」、この圧入調製を行うための「種子マット調製機」及び田植機の植え付け爪に替えて取り付ける「専用かき取り爪」の3つのパーツから構成される。

1) マット

マットはレゾール型フェノール樹脂発泡体(松村アクア株式会社製:品名「21直播マット」)を、田植機の苗載台に搭載できる育苗箱サイズ(縦58cm×横27.5cm×厚さ1.5cm)に成形しており、塑性変形に富み、種子をマットに圧入埋設した際に上面が平坦な着種層を形成できるとともに、かき取り後のマット断面が平滑にスライスされる。また、マット自体の吸水率が体積比99%と高く、田面に点播された際に水面に浮遊しにくいといった特性がある。

なお、調製後のマット重量は260g/枚程度(種子マット60g、種籾150g、水50ml、種子接着用糊2g)で、10a分の種子マット(20枚程度)の重量が稚苗1箱分と同じで、非常に軽くて取り扱いが容易である。

2) 種子マット調製機

種子マット調製機は、マットと種子を供給することで種子マットを製造する全自動

化装置で、交流100ボルト電源を使用し、作業能率は2人の組作業で1時間当たり400枚程度である。

仕様は、全長3000mm、全幅465mm、全高1120mm、全重85kgで、適応播種量はマット1枚当たり425gまでで、過酸化カルシウム1倍重コーティングであれば乾粒換算でマット当たり180g、2倍重であれば135gまで圧入埋設できる。

構造は、ベルトコンベア上に、マット繰り出し部・水噴霧部・接着糊散布部・播種部・圧入ローラ部及び操作盤を配置しており、コンベア上にマットを1枚ずつ供給し、これに霧水及び接着糊(粉末デンプン糊)を散布し、さらに所定量の種子を整列播種し、最後に回転するローラによりマット表層内に種子を圧入埋設する。

3) 専用かき取り爪

直播専用のかき取り爪は、肉厚0.8~1mmの鉄製で、マットをかき取る先端部は幅14mm、深さ20mmのコの字型で、先端面はかき取った種子マットを圧縮できるように外側に向けて傾斜させており、1回の動作で種子マットを14mm方形のブロック状にかき取ることができる。また、かき取った種子マットブロックの脱落を防ぐために「マットブロック保持針(ニードル)」を装着している。

3 播種方法

1) は場の準備

代かきは播種3~4日前に行い、播種を早朝から行う場合には前日より、昼から行う場合には当日早朝より落水し、播種時に

田面 が50%程度露出する状態にしておく。

2) 種子マット調製

種子マットの調製は、10a当たりマットを20～22枚、鳩胸程度の催芽粉に過酸化カルシウム粉粒剤を1倍重コーティングした種子を乾粒換算で3kg/10a程度用意し、種子マット調製機の播種量を乾粒換算で150g/マット程度に調製した上で行う。なお、アドマイヤー水和剤等を使用する場合には過酸化カルシウムコーティング時に同時混和しておく。

3) 専用かき取り爪の装着

田植機に装着されている「植え付け爪」を取り外し、機体型式に適合した「専用かき取り爪（マットブロック保持針付き）」を装着する。

田植機の機械調整は、横送り回数（量）：20回（14mm）、株間調整：50～70株/3.3㎡、縦かき取り量：13～15mm、植え付け深さ：10mm、油圧感度調整機構：標準～軟、とする。特に、植え付け深さを10mmより深くすると極端に出芽が悪くなるので注意が必要である。

4) 作業の実際

ほ場では、着種済みの「種子マット」を田植機の苗載せ台に搭載し、台上に密着し滑りやすくするために種子マットに水をかけてから、播種作業を開始する。この時、種子マットが折れないようにマットの両側を軟らかく持つようにする。

作業中は、田面に押し込んだ種子マットブロックの着種面が6～10mmの深さになるように、油圧感度調整機構だけを利用して、播種深度を調整しながら作業を進める。この時、植え付け深さは10mmの設定のままに

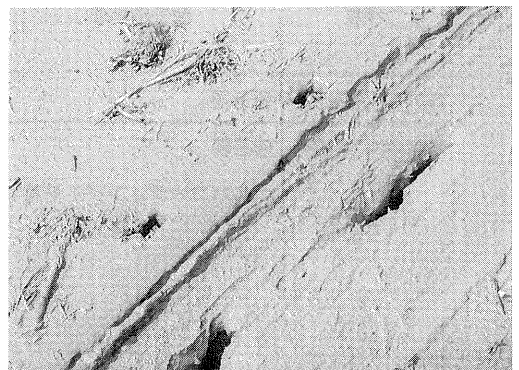
しておく。

5) 播種後の水管理

播種後は落水状態にして出芽を促進する。ただし、晴天が続く場合、田面に亀裂が生じて漏水の原因になるので、少しでも田面のヒビを見つけたり、種子が乾燥するようであれば、直ちに「走り水」を行い、以降は排水口を開放して再び自然落水させる。このように、種子に酸素と水分を供給するきめ細かい水管理を除草剤施用時期まで続



写真－4 田植機での作業風景



写真－5 播種直後から生育初期

ける。

6) 除草剤の施用

水稻湛水直播栽培では、播種直後処理、出芽後処理、稲1葉期以降処理等の除草剤がある。稲1葉期以降の処理の場合は高い効果を得やすいが、出芽のバラツキに留意する必要がある。

除草剤散布後は、十分に湛水し、決して田面を露出させないように注意する。また、雑草の取りこぼしが目立つ場合には、播種+25日目頃に中期剤（シハロホップブチル・ベンタゾン液剤等）を施用する。除草剤の選定にあたっては、直播水稻除草剤の登録状況に従う。

4 播種精度、出芽・生育収量に関する試験研究結果

(1) 播種精度

マット（発泡倍率及び圧縮強度の向上）・かき取り爪（ニードルの追加装着）・子マット調製機（整列シュータの装着）の改良により、開発時よりもマットブロックの脱落割合の軽減、株形成範囲の縮減など播種精度が向上し、欠株率は、開発時には13.6%であったものを1.3%まで低減できた（表-1）。

(2) 種子の処理別の苗立状況

苗立率は、催芽粉区が38%であったのに対し、過酸化カルシウム1倍重コーティングでは63%と高く、しかも2倍重との差はほとんどなかった（図-1）。

また、10a当たり播種量を3kgに固定し、株間調整を50・60・70株、縦かき取り量を16・14・12mmに設定して播種する

表-1 播種精度

年度	種子の処理	欠株率 %	出芽数 本/㎡	株形成範囲			マットブロックの 脱落割合 %
				長径 mm	短径 mm	面積 cm ²	
2000年(開発時)	催芽粉	13.6	51	47	33	15.5	21.0
2002年(改良後)	催芽粉	8.8	56	34	23	7.8	2.2
	カルバコーティング1倍重	1.3	80	58	37	21.5	2.2

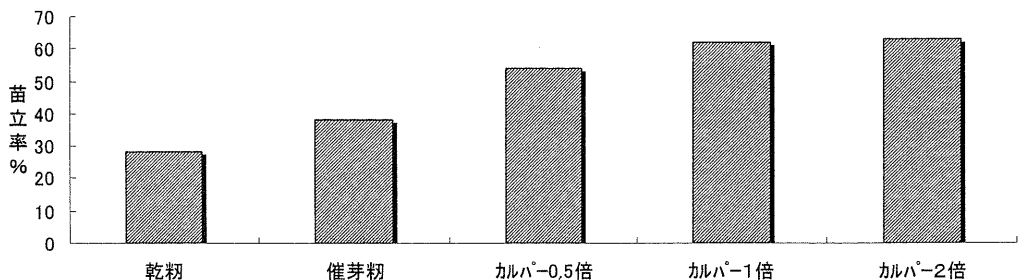


図-1 種子の処理別苗立率

表-2 栽植密度別の出芽状況

試験区	欠株率 %	m ² 当たり出芽数 本/m ²	出芽率 %	1株当たり出芽数 本/株
70株区	2.5	65	56	3.3
60株区	1.7	69	56	3.9
50株区	0.9	62	54	4.0

表-3 点播精度

試験区		欠株率 %	m ² 当たり 苗立数 本/m ²	株形成範囲			マットブロックの 脱落割合 %
種子の処理	作業速度 m/s			長径 mm	短径 mm	面積 m ²	
催芽粉	1.3	8.8	56	34	23	7.8	2.2
	0.8	6.7	47	40	32	12.8	2.2
カバ [®] -コーティング [®] (1倍重)	1.2	1.3	80	36	28	10.1	4.3
	0.9	1.2	80	58	37	21.5	2.2

表-4 年次別の生育収量調査結果(品種: ヒノヒカリ)

年度	種子の処理	播種期	播種量 kg/10a	出芽数 本/m ²	欠株率 %	籽数 コ/m ²	千粒重 g	登熟歩合 %	収量 kg/a
2001年	カバ [®] -コーティング [®] 粉 催芽粉	5月17日	2.3	56	5.0	24102	22.9	75.2	50.0
		5月17日	2.4	32	28.3	20395	22.9	76.7	49.1
2002年	カバ [®] -コーティング [®] 粉 催芽粉	5月14日	3.3	80	1.3	32136	21.8	75.7	52.7
		5月14日	3.4	52	8.8	25752	22.4	76.2	47.3

と、1マットブロック当たり播種粒数は6.5, 5.0, 3.7粒となったが、m²当たりの苗立ち数や欠株率に差はなかった(表-2)。

(3) 点播精度

1播種箇所の苗立ち範囲を株形成範囲(=長径×短径)として評価すると、過酸化カルシウムコーティング粉(1倍重)を使用し、田植機の作業速度を1.2m/sとした場合には10.1cm²となり、他の点播直播様式(例:代かき同時点播直播栽培)に比較して1/3まで縮減でき、精度の高い点播形状を確保できた(表-3)。

(4) 収量性

催芽粉と過酸化カルシウムコーティング粉(1倍重)を比較すると、3年間の平均収量は48.2kg/a, 53.7kg/aとなり、苗立ちが安定し欠株の少ない過酸化カルシ

ウムコーティング粉での収量の安定性が高かった(表-4)。

また、品質については移植栽培と比べ遜色ないと考えられるが、疎植(50株/3.3m²)に設定すると、乳白粒が増加し、等級品質が劣る傾向があったことから、今後の検討が必要である(表-5)。

表-5 栽植密度別の等級格付け

栽植密度	年度	品種	等級格付
50株/3.3m ²	2002	ヒノヒカリ	3等
	2003	ヒノヒカリ	1等
60株/3.3m ²	2002	ヒノヒカリ	2等
	2003	ヒノヒカリ	1等
70株/3.3m ²	2002	ヒノヒカリ	2等
	2002	ヒノヒカリ	1等

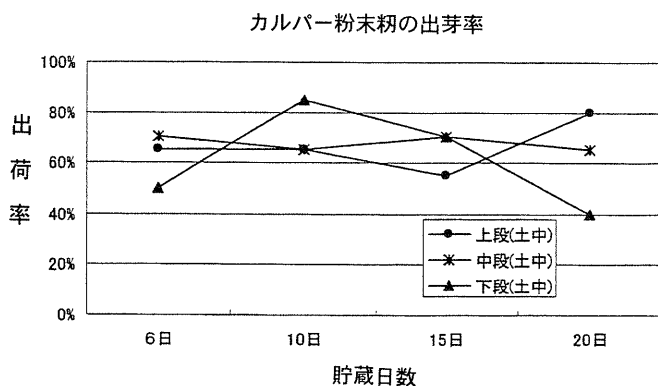


図-2 15℃で貯蔵した種子の出芽率(ポット試験)

(5) 貯蔵性

調製済みの種子マットは、15℃であれば15日間程度の貯蔵ができた(図-2)。

(6) 除草剤ピリミノバックメチル・ベンス

ルフロンメチル・メフェナセット粒剤、シハロホップブチル・ピラソスルフロンエチル・ブタミホス粒剤、シハロホップブチル・ベンスルフロンメチル・メフェナセット粒剤は除草効果が高く、葉害も軽微で湛水直播栽培の一発剤として有望であった(表-6)。

5 栽培実績

(1) 実施概況

平成14年度は全国で7haであったが、平

成5年度では実証試験を含め78haに達した。山口県以外での主な実施県は、青森県、岩手県、山形県、福島県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、滋賀県及び兵庫県である。

なお、実際に栽培した農家からは、「我が家の田植機を利用できるのが良い」、「経営の一部を直播に置き換えて楽が

できた」、「手取り早く育苗労力を軽減できる」との声が寄せられており、当直播システムの評価は高かった。

(2) 種子マット調製機の普及状況

マット式湛水直播栽培では、マットに種子を圧入して種子マットを製造・供給する種子マット調製機の設置場所が普及拠点となるが、この調製機については、現在、山口県に3台、兵庫県3台、山梨県1台の計7台が導入されている。

6 普及推進のためのフォローアップ体制

(1) 技術開発協議会の設置

マット式水稻湛水直播システムは、種子マット、専用かき取り爪、種子マット調製機の3

表-6 除草効果と生育収量

薬剤名	処理 時期	除草効果						水稻への 影響 収量対比
		残草量(茎葉重対無除草区比)					合計	
		ノビエ	カヤツリグサ	コナギ	その他広葉	ホタルイ		
無除草区		2	2.4	63	9.8	0.2	77.4	69
KUH-936 b 1 kg粒剤	稲 1 L	0	0	3	1	0	4	103
NBA-941 1 kg粒剤	稲 1 L	0	0	t	0	0	t	120
NBA-942b 1 kg粒剤	稲 1 L	0	0	3	0	0	3	126
比)TH-913HSK 1 kg粒剤	稲 1 L	0	22	1	t	0	23	100

注1)調査年次は2003年度。

注2)残草調査は6月30日(播種後30日)、草丈、茎数調査は7月16日に実施。

注3)無除草区の残草量は乾物重/m²

つで構成されており、それぞれの資材・機械製造メーカーと山口県から成る「マット直播栽培技術開発協議会」を設置し、技術の総合的な改良発展とメーカー間の連携を図っている。

(2) 普及事務局の設置

普及に当たっては、マットの製造販売を行っている松村アクア株式会社（本社：東大阪市）内に「マット直播栽培普及推進事務局 TEL：06-6782-1966」を設置し、パンフレットの発行・広告掲載・実証ほの設置などの普及啓発活動及び資材・機械の調達斡旋等を行っている。なお、松村アクア兵庫工場内には、催芽

機器・全自動カルパーコーティングマシン及び種子マット調製機を設置し、全国に向けて着種済みマットの製造販売を行っている。

(3) 資材・機械の供給

マットは松村アクア（株）、種子マット調製機は（株）啓文社製作所（本社：広島県吉田町）で製造販売している。また、「専用かき取り爪」については、井関農機（株）、（株）クボタ、三菱農機（株）及びヤンマー農機（株）各社の田植機に適合する爪の供給は可能であり、松村アクア（株）内の普及事務局で各社仕様の爪を斡旋し、井関農機（株）においては自社製仕様について供給できる体制ができている。

**省力タイプの
高性能一発処理
除草剤シリーズ**

**問題雑草を
一掃!!**

水稲用初・中期一発処理除草剤 ダイナマン		水稲用初・中期一発処理除草剤 ダイナマン		水稲用初・中期一発処理除草剤 ダイナマン ジャンボ		水稲用一発処理除草剤 マサカリ ジャンボ	
1キロ粒剤75	D1キロ粒剤51	フロアブル ダイナマンフロアブル ダイナマンLフロアブル	Dフロアブル				

日本農薬株式会社
東京都中央区日本橋1丁目2番5号
ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。
- *空容器は直ちに廃棄してください。

平成16年度畑作関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成16年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年12月6日(月)～7日(火)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験12剤、適用性試験28剤で、生育調節剤は作用性試験3剤、適用

性試験5剤であった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成16年度 畑作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
1. AH-01 液剤 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキシ(メチル)オスフィノイル]ブタン酸ナトリウム塩 10.5%	大豆	継								・効果、薬害の確認
	菜豆	継								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
	ホップ	継								・効果、薬害の確認
2. AK-01 液剤 グリホサートイソプロピルアミン塩 41%	大豆	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種10日以上 前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用する。	
	さとうきび (圃場周縁)	実・継	一年生雑草	茎葉	雑草生育期 (草丈30cm以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 作物に飛散しないように散布する。 2) 専用ノズルを使用する。	・効果の確認
			多年生雑草(スギナを除く)			500～1000 mL ＜水量 25～50L＞				

注) _____ は拡大される部分、..... は拡大部分が含まれることを示す

薬剤名の _____ は新たに使用基準が作成される薬剤である

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
4. ANK-553 乳剤 ベンテ・イメタリン 30%	春播小麦	実・継	従来通り 一年生雑草(キ科、ツクサを除く)							・小麦1～2葉期処理の効果、 薬害の確認
5. ANK-553 細粒剤 ベンテ・イメタリン 2%	ばれいしょ	実	従来通り 一年生雑草(キ科、ツクサを除く)	土壌	植付後 雑草発生前	4～6kg	全土壌 (砂土を除く)		1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地はていねいに行い、 均一に散布する。	
	ばれいしょ (マルチ)	継								・マルチ前処理での効果、 薬害の確認
6. BAG-033 乳剤 ジメナミト・P 250g/L ベンテ・イメタリン 250g/L	とうもろこし 飼料用 とうもろこし	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～400 mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除く)		1) 北海道を除く	・低薬量での効果の 確認 ・北海道での効果、 薬害の確認
7. BAS-3510 (Na)L 液剤 ベンタゾン 40%	大豆	実・継	従来通り 一年生広葉雑草	茎葉	大豆2葉期～開花前 広葉雑草生育初期(6葉期まで)	100～150 mL <水量 100L>	全土壌		1) 気象条件によっては一過性の薬害を生じることがある。 2) 品種によっては薬害により減収する場合があるので、 使用にあたっては使用前に公的指導機関の指導を受けること。 3) アザミ科、ヒヨドリバナ科等には効果が劣る。 4) 体系処理：イネ科雑草に有効な除草剤を使用する。	・北海道における効果、 薬害の確認
	春播小麦	継								・効果、薬害の確認
9. DPX-16 顆粒水和剤 チフェンスルフロメチル 75%	こんにゃく	実	一年生広葉雑草	茎葉	広葉雑草生育初期(4葉期まで)	5～10g <水量 100L>	全土壌 (砂土を除く)		1) 体系処理：イネ科雑草に有効な既登録除草剤を使用する。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
10. Hoe-866 液剤 グ ^o ルホネート 18.5%	大豆	実・継	従来通り							
			一年生雑草	茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500 mL ＜水量100～150L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しないように散布する。	
				茎葉	播種前10～14日				1) 北海道を除く 2) 雑草の生育量に応じて薬量を増減する。 3) 播種後土壌処理剤との体系処理をする。	
					播種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)				1) 北海道、九州を除く 2) 大豆の発芽開始後は、薬剤が直接触れると薬害が発生することがあるので注意する。	・低薬量での効果および薬害の確認 ・地域拡大
13. KUH-901 乳剤 ベンチオカーブ ^o 50% リニエロン 7.5% ベン ^o ディメタリン5%	落花生	実	一年生雑草全般	土壌	播種後雑草発生前 マルチ前、 播種前 雑草発生前	500～700 mL ＜水量100L＞	全土壌 (砂土を除く)			
14. MON-93A 液剤 グ ^o リホサートアンモニウム塩 33%	大豆	継								・効果、薬害の確認
	さとうきび	継								・効果、薬害の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
15. MON-96A 液剤 ク [®] リホサートアンモニウ ム塩 41%	大豆	実・ 継	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。 3) 専用ノズルを使用す る。	・ 生育期畦間処 理での年次変 動の確認
				茎葉	耕起10日以 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量25 ～100L＞			1) 北海道を除く 2) 少水量散布 (25～50 L) の場合は専用ノズ ルを使用する。	
					播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量50 ～100L＞			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるので注 意する。 3) 少水量散布 (50L) の 場合は専用ノズルを 使用する。	・ 出芽前処理で の散布水量と 効果の年次変 動の確認
			飼料用 とうも ろこし	実・ 継	一年生雑 草、多年 生雑草(ス キナを除 く)	茎葉	播種後出芽 前 雑草生 育期	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌	
	ばれい しよ	継								・ 効果、薬害の 確認
	さとう きび	継								・ 効果、薬害の 確認
	そば	実・ 継	一年生雑 草、多年 生雑草(ス キナを除 く)	茎葉	耕起または 播種の7日 以前 雑草 生育期 (草 丈30cm以 下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 専用ノズルを使用す る。	・ 効果、薬害の 年次変動の確 認
16. NBA-961 顆粒水和剤 タミトン 70%	てんさい (直播)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい2 葉期以降 (雑草発生 始～摘期)	250～350 g ＜水量 100L＞	全土壌		1) シロサ [®] 、ハコベ [®] は、葉齢 が進むと効果の劣 る場合がある。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
17. NBA-961顆 粒水和剤+フ ェンメデ [®] イファム 乳剤 メタミロン 70% フェンメデ [®] イファム 13%	てんさい (移植)	継								・ 効果、薬害の 確認
18. NC-360 フロア [®] ル剤 キザ [®] ロホップ [®] エチル 7%	大豆	実 ・ 継	一年生イ ネ科雑草 (スズメノカタ ビ [®] ラを除 く)	茎葉	イネ科雑草 3～8葉期	200～300 mL ＜水量 100L＞	全土壌		1) 体系処理：広葉雑 草対象の既登録土 壌処理剤を使用す る。	・ 東北以南での 効果、薬害の 年次変動の確 認
19. NH-007 フロア [®] ル剤 ビ [®] ラフルフェニエチル 0.16% グリホサートイソ [®] プロ ピ [®] ルアミン塩 30%	大豆	実	一年生雑 草	茎葉	耕起または 播種10日以 前 雑草生 育期（草丈 30cm以下）	400～600 mL ＜水量 100L＞	全土壌		1) 北海道を除く	
20. RSH-44 乳剤 ジ [®] フルフェニオン 3.7% トリフルラリン 37%	春播小 麦	継								・ 効果、薬害の 確認
21. RSH-44L 粒剤 ジ [®] フルフェニオン 0.15% トリフルラリン 2%	春播小 麦	継								・ 効果、薬害の 確認
22. SB-508 乳剤 ジ [®] メナミト [®] 76%	てんさい (移植)	実	一年生イ ネ科雑草	土壌	移植活着後 雑草発生前	100～150 mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)			
23. SB-508乳 剤+リニロン水 和剤 ジ [®] メナミト [®] 76% リニロン 50%	大豆	継								・ 効果、薬害の 確認
24. SL-236 (L) 乳剤 フルアジ [®] ホップ [®] P [®] チル 17.5%	てんさい	実 ・ 継	一年生イ ネ科雑草 (スズメノカタ ビ [®] ラを除 く)	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	75～100 mL ＜水量 25、100L＞	全土壌		1) 体系処理：広葉雑 草対象の既登録土 壌処理剤を使用す る。 2) 少水量散布 (25L) の 場合は専用ノズルを 使用する。	・ 少水量散布で の効果、薬害 年次変動の確 認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
26. SYJ-103 フロアブル剤 メトリオン 100g/L	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	実	一年生広 葉雑草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	150～200 mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)	1) 播種後処理は北海 道を除く 2) スペリヒュに効果が劣 る場合がある。 3) 茎葉処理では一過 性の白化症状を生 じる場合がある。		
			一年生雑 草	茎葉	とうもろこ し2～4葉期 (雑草3葉期 まで)	100～150 mL ＜水量 100L＞				
27. YF-65L 液剤 ジクワットジプロ ト 7% バクコートジクロリ ト 5%	大豆	実	従来通り							
			一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	600～ 1000mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。		
				茎葉	播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 20cm以下)			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるので 注意する。		
	菜豆	継							・ 効果、薬害の 確認	
	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	継							・ 効果、薬害の 確認	
	さとう きび	実	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)	600～ 1000mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 作物に飛散しない ように散布する。		
さとう きび (圃場 周縁)	実	一年生雑 草、多年 生雑草	茎葉	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	1000～ 2000mL ＜水量 100L＞	全土壌	1) 作物に飛散しない ように散布する。			

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
28. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム 塩 43%	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉兼	耕起または 播種7日以 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用す る。	・効果、薬害の 年次変動の確認
					播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	250～500 mL ＜水量50 ～100L＞			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるので注 意する。 3) 少水量散布(50L)の 場合は専用ノズルを 使用する。	・低薬量、低水 量での効果の 確認
	かんし よ	継								・効果、薬害の 確認
	さとう きび (圃場 周縁)	実	一年生雑 草	茎葉兼	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 作物に飛散しない ように散布する。 2) 専用ノズルを使用す る。	
			多年生雑 草(スキナ を除く)			500～ 1000mL ＜水量 25～50L＞				
29. トリフルアリン 乳剤 トリフルアリン 44.5%	大豆 (移植)	継								・効果、薬害の 確認
	春播小麦	継								・効果、薬害の 確認
30. トリフルアリン 粒剤 トリフルアリン 2.5%	大豆 (移植)	継								・効果、薬害の 確認
	春播小麦	継								・効果、薬害の 確認
32. レナシル・PAC 顆粒水和剤 レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	実・継	一年生雑 草(スズメノ カタビラを 除く)	茎葉兼 土壌	移植活着後 雑草発生初 期	200～300 g ＜水量 100L＞	全土壌			・効果、薬害の 年次変動の確認 ・散布水量につ いて

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	
33. AL-513 細粒剤 アフラール 5% リニuron 1.3%	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)	1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地はていねいに行い、均一に散布する。 3) 透水性の大きい土壌では、処理後の降雨量が多いと生育抑制が現れることがある。	・ 地域拡大
34. NBA-961顆粒水和剤+レナシル・PAC水和剤 メタミロン 70% レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	継							・ 効果、薬害の確認

B. 生育調節剤

薬剤名	作物名	試験目的	判定	実用化に対する 処理方法	継続の内容
1. AH-01 液剤 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキシ(メチル)オキシノイル]フタン酸ナトリウム塩 10.5%	ばれいしょ	[作用性] 茎葉枯凋促進効果 (茎葉繁茂期処理)	—		・ 薬量等について作用性試験にて検討
		[作用性] 茎葉枯凋促進効果 (茎葉黄変期処理)	—		・ 適用性試験にて検討
2. F-8426E0 EO剤 カルフェントロソニエチル 60g/L	ばれいしょ	[適用性] 茎葉枯凋促進効果 (茎葉繁茂期処理)	実・継	[茎葉枯凋促進効果] ・ 開花始30日後以降 (茎葉繁茂期) 200mL/10a→150~200mL/10a <水量100L/10a> 茎葉処理 (2回処理) 北海道	・ 萌芽性の確認
		[適用性] 茎葉枯凋促進効果 (茎葉黄変期処理)	継		・ 効果の確認
		[作用性] 茎葉枯凋促進効果 (茎葉黄変期処理の散布水量拡大)	—		・ 適用性試験にて検討

B. 生育調節剤 つづき

薬 剤 名	作物名	試験目的	判 定	実用化に対する 処理方法	継続の内容
3. NGR-303 粒剤 イソプロチオン 12%	かんしょ	〔作用性・適用性〕 発根促進による品質向上(色、 サイズ)	継		・効果の確認
4. NH-611 乳剤 ビラフルフェンエチル 0.4%	ばれいしょ	〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 前年処理したいものの萌芽性確 認	実・継	従来通り 〔茎葉枯凋促進効果〕 ・開花始30日後以降(茎葉 繁茂期) 450mL/10a→250~450mL/ 10a <水量100L/10a> 茎葉処理(2回処理) 北海道	・東北以南での効果、 薬害の確認
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 東北以南への地域拡大			
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理) 処理回数の拡大(北海道)	実・継	従来通り 〔茎葉枯凋促進効果〕 ・茎葉黄変始~黄変期 250~450mL/10a <水量100L/10a> 茎葉処理(1~2回処理) 北海道	・東北以南での効果、 薬害の確認
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄変 期処理) 東北以南への地域拡大			
5. S-482 顆粒水和剤 フルミオキサジン 50%	ばれいしょ	〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 前年処理したいものの萌芽性確 認	実・継	〔茎葉枯凋促進効果〕 ・開花始30日後以降(茎葉 繁茂期) 10~20g/10a→10g/10a <水量100L/10a> 茎葉処理(2回処理) 北海道 注)展着剤を加用する。	・萌芽性の確認
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉繁茂 期処理) 北海道での適用性			
		〔適用性〕 茎葉枯凋促進効果(茎葉黄 変期処理) 前年処理したいものの萌芽性確 認	実	〔茎葉枯凋促進効果〕 ・茎葉黄変始~黄変期 10~20g/10a <水量100L/10a> 茎葉処理 北海道	
6. エテホン 液剤 エテホン 10%	春播小麦	〔適用性〕 節間伸長抑制による倒伏軽減 薬量、散布水量の拡大	実・継	従来通り 〔節間伸長抑制による倒伏 軽減〕 ・出穂始期 300~500倍 <水量100L/10a> 茎葉処理	・低薬量、低散布水量 での効果、薬害の確 認

平成16年度春夏作野菜花き関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成16年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年12月14日(火)～15日(水)に池之端文化センターにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者63名、委託関係者38名ほか、計115名の参集を得て、除草剤31薬剤(123点)、生

育調節剤16薬剤(55点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成16年度 春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 野菜関係除草剤

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] 処理時期 ; 薬量g・mL<水量L>/10a ; 処理方法等	判 定	内 容
1. AH-01液 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキシ(メチル)オスフィノイル]ブタン 酸ナトリウム塩 10.5% [明治製菓]	メロン	適用性 継続	茨城園研 (1)	[一年生雑草全般] 定植前 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ハース液 300mL<100L>	継	継) 効果、薬害の確認。
	メロン	適用性 継続	茨城園研 (1)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハース液 300mL<100L>		
	イチゴ	適用性 新規	千葉大園芸学部 奈良農技 (2)	[一年生雑草全般] 定植前 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ハース液 300mL<100L>	継	継) 効果、薬害の確認。
	イチゴ	適用性 新規	千葉大園芸学部 奈良農技 (2)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハース液 300mL<100L>		
	サトイモ	適用性 新規	三重科学技術 (1)	[一年生雑草全般] 植付前 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ハース液 300mL<100L>	継	継) 効果、薬害の確認。

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
AH-01液	サトイモ	適用性 新規	千葉大環境健康ファイ ル [®] 鹿児島大隅 (2)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハース液 300mL<100L>		
2. AK-01液 クワリサートイソプロピルアミン 塩 41% [TAC普及会]	サト	適用性 新規	兵庫農技 島根農試 大分農技 (3)	[一年生雑草全般] 耕起または定植7日以前 雑草生 育期 (草丈30cm以下) ; 250mL<25, 50L>, 500mL<50L> ; 全面茎葉処理 対) 三共の草枯らし 250mL<50L>	継	(継) 効果、薬害の確認。
3. ANK-553乳 ベンデメタリン 30% [BASFアグロ]	アスパラ カス	適用性 新規	千葉大環境健康ファイ ル [®] (1)	[一年生雑草全般(キ科、ツクサを 除く)] 萌芽前 雑草発生前 ; 200, 300, 400mL<100L> ; 全面土壌処理 対) トレファサイト [®] 乳 200mL<100L>	継	(継) 効果、薬害の確認。
4. ANK-553細粒 ベンデメタリン 2% [BASFアグロ]	ニラ	適用性 新規	福島農試 群馬農技 鹿児島大隅 (3)	[一年生雑草全般(キ科、ツクサを 除く)] 定植後 雑草発生前 ; 4, 5, 6 kg ; 全面土壌処理 対) コーゴ [®] サン乳 300mL<100L>	実 ・ 継	(実) [一年生雑草(キ科、ツクサを除 く)] ・ 定植後 雑草発生前 4~6kg/10a 全面土壌処理。 (継) 効果、薬害の年次変動の確認。
5. BAG-033乳 ジメナミド 250g/L ベンデメタリン 250g/L [BASFアグロ]	タマネギ	作用性 新規	植調北海道 (1)	[一年生雑草全般] 定植後 雑草発生前 ; 200, 300, 400mL<100L> ; 全面土壌処理	—	
6. FUIN-2 (BJL-861) 微粒 タゾメット 98% [アグロカネヨウ]	レタス	適用性 新規	植調岩手 奈良農技 兵庫農技 広島農技 (4)	[一年生雑草全般] 定植3週間前 雑草発生前 ; 20, 30kg ; 土壌混和処理	実 ・ 継	(実) [一年生雑草全般] ・ 定植21日以前 20~30kg/10a 土壌混和処理。 注) 深さ15~25cmに土壌と十分 混和後ポリフィルム等で被覆、7~ 14日後被覆を除去して少なく とも2回以上の耕起によるガ ス抜き。 (継) 効果、薬害の確認。

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
7. Hoe-866液 グロホシネット 18.5% [ハイエール クロップ サイエンス]	フロッコリ	適用性 継続	植調岩手 愛知農総試 鳥取園試 香川農試三木 <福岡農総試> (5)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) フリクノックスL液剤 600mL<100L>	保 留	
	ニンニク	適用性 継続	青森畑園試 香川農試 (2)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理	実	実) [一年生雑草全般] ・ 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) 300~500mL<100~150L>/10a 畦間茎葉処理.
	イチゴ	適用性 新規	千葉大園芸学部 奈良農技 (2)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理	実 継	従来通り (畦間処理は継続) 実) [一年生雑草全般] ・ 定植前 雑草生育期 (草丈20cm以下) 300~500mL<100~150L>/10a 全面茎葉処理. 継) 畦間処理での効果、薬害の確認.
	ニンジン	適用性 新規	植調研究所 埼玉鶴ヶ島 岐阜農技研 (3)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) フリクノックスL液剤 600mL<100L>	実 継	従来通り (畦間処理は継続) 実) [一年生雑草全般] ・ 播種前 雑草生育期 (草丈20cm以下) 300~500mL<100~150L>/10a 全面茎葉処理. 継) 畦間処理での効果、薬害の確認.
	穂シソ	適用性 新規	愛知東三河 (2)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理	実	実) [一年生雑草全般] ・ 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) 300~500mL<100~150L>/10a 畦間茎葉処理.
8. KUH-901乳 ベンチオカーブ 50% ベンテイメタリン 5% リネロン 7.5% [タミイ化学工業]	ニラ	適用性 新規	栃木農試 群馬農技 鹿児島大隅 (3)	[一年生雑草全般] 定植後または定植培土後 雑 草発生前~発生始期 ; 500, 700mL<100L> ; 全面土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認.
	ニラ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草全般] 刈込(捨て刈り)後または収穫 後 雑草発生前~発生始期 ; 500, 700mL<100L> ; 全面土壌処理		

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
9. KUH-901細粒 ベンチカーブ® 8% ベンデメタリン 0.8% リニロン 1.2% [クマイ化学工業]	ニラ	適用性 新規	栃木農試 群馬農技 鹿児島大隅 (3)	[一年生雑草全般] 定植後または定植培土後 雑 草発生前 ; 4, 5 kg ; 全面土壌処理	継	(継) 効果、薬害の確認。
	ニラ	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草全般] 刈込(捨て刈り)後または収穫 後 雑草発生前～発生始期 ; 4, 5 kg ; 全面土壌処理		
	サトイモ	適用性 継続	埼玉鶴ヶ島 千葉大環境健康フ ィル 三重科学技術 鹿児島大隅 (4)	[一年生雑草全般] 植付後 マルチ前 雑草発生前 ; 4, 5 kg ; 土壌処理	実	
10. MON-96A液 クワリホサートアンモニウム塩 41% [日産化学工業]	レタス	適用性 継続	兵庫農技 香川農試 福岡豊前 (3)	[一年生雑草全般] 耕起または定植7日以前 雑草生 育期(草丈30cm以下) ; 250mL<25, 50, 100L>, 500mL<25, 100L> ; 全面茎葉処理	実・ 継	(実) [一年生雑草全般] ・耕起または定植7日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) 250mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 全面茎葉処理. (継) 500mL/10aでの薬害の確認。
	アスパラ ガス	適用性 新規	道立花・野菜技 植調北海道 (2)	[スギナ] 生育期 スギナ生育期(草丈30cm 以下) ; 2000mL<25, 50, 100L> ; 畦間茎葉処理	継	(継) 効果、薬害の確認。
	ネギ	適用性 継続	兵庫農技 大分農技 (2)	[一年生雑草全般] 耕起または定植7日以前 雑草生 育期(草丈30cm以下) ; 250mL<25, 50, 100L>, 500mL<25, 100L> ; 全面茎葉処理	実	従来通り (実) [一年生雑草全般] ・耕起または定植7日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 全面茎葉処理. ・生育期 雑草生育期(草丈30cm 以下) 250~500mL<25~100L>/10a (25~50Lは専用ノズル使用) 畦間茎葉処理.
	ニンジン	適用性 新規	植調研究所 岐阜農技研 (2)	[一年生雑草全般] 耕起または播種7日以前 雑草生 育期(草丈30cm以下) ; 250mL<25, 50, 100L>, 500mL<25, 100L> ; 全面茎葉処理	継	(継) 効果、薬害の確認。

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
11. NC-3607ロアフル キザ・ロップ・エナル 7% [日産化学工業]	ヤマノイモ	適用性 新規	三重科学技術セ 鳥取園試 (2)	[一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタビ ^ラ ヲを除く)] イネ科雑草3～5葉期 ; 200, 300mL<100L> ; 茎葉処理 対) ナブ ^ラ 乳 200mL<100L>	継	継) 効果、薬害の確認。
	ヤマノイモ	適用性 新規	十勝農試 三重科学技術セ 鳥取園試 (3)	[一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタビ ^ラ ヲを除く)] イネ科雑草6～8葉期 ; 200, 300mL<100L> ; 茎葉処理 対) ナブ ^ラ 乳(3～5葉期) 200mL<100L>		
12. NKD-001液 コロビ ^ラ クリン 35% 1, 3-D 60% [タ ^ラ フルストッパ ^ラ ー協議 会;タ ^ラ ウ・ケミカル日本, 日 本化薬]	野 菜 一 般	適用性 継続	植調岩手 島根農試 広島農試 福岡農総試 (4)	[一年生雑草全般] 播種または定植10～15日前 ; 30L ; 土壌灌注処理 対) コロビ ^ラ クリン液 30L	継	継) 効果、薬害の確認。
13. NTN-70水和 メトリブ ^ラ シン 50% [ハ ^ラ イエル クロップ サイエ ンス]	ヤマノイモ	適用性 新規	十勝農試 群馬農試 三重科学技術セ 鳥取園試 (4)	[一年生雑草全般] 植付後～萌芽前 雑草発生始 期 ; 100, 150g<100L> ; 全面土壌処理 対) ロックス水和 100g<100L>	継	継) 効果、薬害の確認。
14. SB-508乳 ジメナミト ^ラ 76% [BASFア ^ラ ロ]	フ ^ラ ロココ ー	適用性 継続	長野野菜花き試 愛知農総試 京都丹後 〈福岡農総試〉 (4)	[一年生雑草全般(タ ^ラ テ ^ラ 科、ア ^ラ サ ^ラ 科、 ア ^ラ フ ^ラ ヲ科を除く)] 定植後 雑草発生前 ; 75, 100, 125mL<100L> ; 全面土壌処理	実	実) [一年生雑草(タ ^ラ テ ^ラ 科、ア ^ラ サ ^ラ 科、ア ^ラ フ ^ラ ヲ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前 75～125mL<100L>/10a 全面土壌処理。
	タ ^ラ ネキ ^ラ	適用性 新規	道立花・野菜技セ 北見農試 (2)	[一年生雑草全般(タ ^ラ テ ^ラ 科、ア ^ラ サ ^ラ 科、 ア ^ラ フ ^ラ ヲ科を除く)] 定植後 雑草発生前 ; 100, 125, 150mL<100L> ; 全面土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認。
15. SL-236(L) 乳 フルアシ ^ラ ホップ ^ラ P ^ラ フ ^ラ チル ^ラ 17. 5% [石原産業]	フ ^ラ ロココ ー	適用性 継続	植調岩手 長野野菜花き試 香川農試三木 (3)	[一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタビ ^ラ ヲを除く)] イネ科雑草3～5葉期 ; 50, 75, 100mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ナブ ^ラ 乳	実	実) [一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタビ ^ラ ヲを除く)] ・ 生育期 イネ科雑草3～5 葉期 50～100mL<100L>/10a 全面茎葉処理。
	ア ^ラ スハ ^ラ ラ カ ^ラ ス	適用性 継続	植調北海道 千葉大環境健康フ ^ラ イ ム ^ラ ト ^ラ 長野野菜花き試 (3)	[一年生イネ科雑草] 生育期(収穫期間中) イネ科雑 草3～5葉期 ; 50, 75, 100mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ナブ ^ラ 乳	実	実) [一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタビ ^ラ ヲを除く)] ・ 生育期 イネ科雑草3～5 葉期 50～100mL<100L>/10a 全面茎葉処理。

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] 処理時期 ; 薬量g・mL<水量L>/10a ; 処理方法等	判 定	内 容
SL-236(L)乳 [シシエンタ ジャパン]	アスハ ^テ カ ^ス	適用性 継続	道立花・野菜技 (1)	[一年生イネ科雑草] 収穫打切後 イネ科雑草3~5葉期 ; 50, 75, 100mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ナ ^フ 乳		
	ヤマノイモ	適用性 継続	十勝農試 青森畑園試 鳥取園試 (3)	[一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタ ^テ ヲを除く)] イネ科雑草3~5葉期 ; 50, 75, 100mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) ナ ^フ 乳	実	実) [一年生イネ科雑草(ス ^ス メノカタ ^テ ヲを除く)] ・生育期 イネ科雑草 3~5 葉期 50~100mL<100L>/10a 全面茎葉処理.
16. SYJ-100乳 ア ^ス ルホ ^カ ル ^フ 800g/L [シシエンタ ジャパン]	タマキ ^テ	作用性 新規	北見農試 植調北海道 (2)	[一年生雑草全般] 定植後 雑草発生前 ; 400, 500mL<100L> ; 全面土壌処理 対) コ ^コ コ ^ン ザン乳 300mL<100L>	—	
17. TMZ-9911液 ヨ ^ウ 化 ^メ チ ^ル 99.5% [アリス ライサイエンス]	ホレンソウ	適用性 継続	長野野菜花き試 兵庫農技 鹿児島大隅 (3)	[一年生雑草全般] 播種前 雑草発生前 ; 20, 30kg ; くん蒸 (被覆内密閉投薬) 対) クロ ^ビ ク ^リ ン液 30L	継	継) 効果、被害の確認.
	イチゴ	適用性 継続	奈良農技 (1)	[一年生雑草全般] 定植前 雑草発生前 ; 20, 30kg ; くん蒸 (被覆内密閉投薬) 対) クロ ^ビ ク ^リ ン液 30L	継	継) 効果、被害の確認.
18. YF-65L液 ジ ^ク ワッ ^ジ ブ ^ロ ミ ^ト 7% ハ ^ラ コ ^ー ト ^ジ ク ^ロ リ ^ト 5% [シシエンタ ジャパン]	アスハ ^テ カ ^ス	適用性 新規	新潟農総園研 新潟高冷地 (2)	[ス ^キ ナ] 生育期 ス ^キ ナ生育期 (草丈30cm以下) ; 1000, 150, 2000mL<100L> ; 畦間茎葉処理	継	継) 効果、被害の確認.
	サトイモ	適用性 継続	千葉大環境健康フ ィ ルド ^ト 三重科学技術 宮崎畑園 (3)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下) ; 600, 800, 1000mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハ ^ス タ液 300mL<100L>	実	実) [一年生雑草全般] ・生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下) 600~1000mL<100L>/10a 畦間茎葉処理.
19. ZK122液 ク ^リ サ ^ー ト ^カ リ ^ウ ム塩 43% [シシエンタ ジャパン]	タマキ ^テ	適用性 新規	北見農試 植調北海道 (2)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下) ; 250mL<25, 50L>, 500mL<50L> ; 茎葉処理 対) ラ ^ウ ント ^ア ッ ^フ ハ ^イ ロ ^ー ド ^テ 液 250mL<50L>	継	継) 効果、被害の確認.

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
20. プロビサミト水和 プロビサミト 50% [タウケキカル日本]	ブロッコリー	適用性 継続	道立花・野菜技術 上川農試 (2)	[一年生雑草全般(キ科、カヅリカ 科を除く)] 定植活着後 雑草発生前 ; 200, 400g<100L> ; 全面土壌処理	実	従来通り 実) [一年生雑草(キ科、カヅリカ 科を除く)] ・定植活着後 雑草発生前 200~400g<100L>/10a 全面土壌処理.
21. リュン水和水 リュン水 50% [デューボン]	ヤマトイ	適用性 継続	十勝農試 青森畑圃試 鳥取園試 (3)	[一年生雑草全般] 展葉後 雑草発生前~揃期 ; 100, 200g<100L> ; 畦間土壌処理	実	実) [一年生雑草全般] ・植付直後 雑草発生前 100~200g<100L>/10a 全面土壌処理. ・生育期 雑草発生前~始期 100~200g<100L>/10a 畦間土壌処理. 注) 生育期処理は、植付前後土 壌処理剤との体系も可

B. 過年度野菜関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
1. Hoe-866液 グロホネット 18.5% [ハリエル クロップ サイエ ンス]	ホレンソウ	適用性 新規	<三重科学技術> (1)	[一年生雑草全般] 播種前 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 全面茎葉処理 対) プリグロックス液剤 600mL<100L>	—	
2. MON-96A液 グロホネットアンモニウム塩 41% [日産化学工業]	ホレンソウ	適用性 新規	<三重科学技術> (1)	[一年生雑草全般] 耕起または播種 7 日以前 雑草 生育期 ; 250mL<25, 50, 100L>, 500mL<25, 100L> ; 全面茎葉処理	—	

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
1. AH-01液 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキ シ(メチル)オスフィニル]フタ 酸ナトリウム塩 10.5% [明治製菓]	花木	適用性 新規	埼玉深谷 鳥取園試 福岡果樹苗木 (3)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハスタ液 300mL<100L>	継	継) 効果、被害の確認.

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
2. Hoe-866液 グルホシネート 18.5% [ハ ^イ エル クロップ サイエ ンス]	キ	適用性 新規	岩手農研 長野野菜花き試 長崎総農試 (3)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm 以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理	継	継) 効果、薬害の確認。
3. MCN-8501液 カーハムトリウム塩 30% [キルハ-協議会;三菱 商事]	花き一 般	適用性 新規	長野野菜花き試 岐阜農技研 広島農技 (3)	[一年生雑草全般] 播種または定植20日以前 ; 60L<1200L>(20倍) ; 灌水処理(被覆内土壌表面散布)	継	継) 効果、薬害の確認。
4. SB-5521顆粒水和 ベンデメタリン 53% [エス・ティ・イー・エス ハ ^イ オテッ ク]	キ	適用性 継続	岩手農研 鳥取園試 福岡農総試 (3)	[一年生雑草全般(キ科を除く)] 定植後 雑草発生前 ; 150, 225, 300g<100L> ; 全面土壌処理 対) トレファノイド [®] 乳 200mL<100L>	実	実) [一年生雑草(キ科、ウコギを除く)] ・ 定植後 雑草発生前 150~300g<100L>/10a 全面土壌処理。
5. TMZ-9911液 ヨ化メチル 99.5% [アリス ライフサイエンス]	キ	適用性 新規	岐阜農技研 広島農技 (2)	[一年生雑草全般] 定植前 雑草発生前 ; 20, 30kg ; くん蒸(被覆内密閉投薬) 対) クロビ [®] クリン液 30L	継	継) 効果、薬害の確認。
6. YF-65L液 ジクワットジ [®] プロミ [®] 7% パラコートジ [®] クロリ [®] 5% [シンジエンタ ジ [®] ヤパン]	花木	適用性 継続	埼玉深谷 鳥取園試 福岡果樹苗木 (3)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈30cm 以下) ; 600, 800, 1000mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハ ^イ スタ液 300mL<100L>	継	継) 効果、薬害の確認。
7. ANK-553乳 ベンデメタリン 30% [BASFア [®] ロ]	リト [®] ウ	適用性 新規	岩手農研 (1)	[一年生雑草全般(キ科を除く)] 定植後萌芽前 雑草発生前 ; 200, 300, 400mL<100L> ; 全面土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認。
		薬害 新規	岩手農研 (1)	[一年生雑草全般(キ科を除く)] 定植後萌芽前 雑草発生前 ; 450, 600, 800mL<100L> ; 全面土壌処理		

D. 過年度花き関係除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
1. Hoe-866液 グルホシネート 18.5% [ハ ^イ エル クロップ サイエ ンス]	リト [®] ウ	適用性 新規	長野野菜花き試 (1)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 (草丈20cm 以下) ; 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ; 畦間茎葉処理 対) ハ ^イ ビ [®] -液剤 500mL<100L>	実 ・ 継	実) [一年生雑草全般] ・ 生育期 雑草生育期 (草丈20cm以下) 300~500mL<100~150L>/10a 畦間茎葉処理。 継) 効果、薬害の確認。

E. 野菜関係生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
1. AKD-8151液 1-ナフタレン酢酸ナトリウム 0.8% [アサヒカシア]	メロン	適用性 新規	茨城園研 千葉暖地園研 静岡農試 (3)	[果実肥大及びネット形成促進] 縦ネット発生期及び横ネット 形成期 2回処理 ; (500), 1000, 2000, 4000倍 <100~200mL/株> ; 散布	継	継) 濃度と効果、葉害の確認。
2. S-327D液 ウニコナーP 0.025% [住友化学工業]	タマネギ	適用性 継続	道立花・野菜技 北見農試 (2)	[育苗期の伸長抑制] 播種時 ; 1, 1.75, 2.5mL/トレイ ; 培養土に混和(4L/培養土20kg の水に希釈後混和する)	実	実) [春播露地移植: 育苗期の伸長抑制] ・播種時 1~2.5mL/トレイ 育苗培養土に混和 北海道のみ。
3. PB-50細粒 penicillium bilaii 1.0×10 ⁵ cfu/g [保土谷化学工業]	アスパラ ガス	適用性 継続	道立花・野菜技 岩手県北 神奈川農総研 長野野菜花き試(4) 長野南信試 (8)	[品質向上(茎の肥大促進)] 萌芽前 土上げ直前 ; 5, 10 kg ; 土壌処理(作条処理)	継	継) 効果の確認。
4. PB-50水和 penicillium bilaii 1.0×10 ⁸ cfu/g [保土谷化学工業]	タマネギ	作用性 新規	北海道農研 北見農試 (2)	[肥大促進] 播種時 ; 2500, 5000倍<200mL/セル> ; 土壌処理 参) PB-50 水和 移植2週間前 2500倍<200mL/セル>	—	
	タマネギ	適用性 新規	北海道農研 北見農試 (2)	[肥大促進] 移植2週間前 ; 2500, 3000, 5000倍<200mL/セル> ; 土壌処理	継	継) 効果の確認。
5. ヒトロキシイソキサゾール 液 ヒトロキシイソキサゾール 30% [三共アグロ]	イチゴ	適用性 継続	長野南信試 福岡農総試 佐賀農研 熊本農研 (4)	[挿し芽時の発根促進及び活着促進] ①挿し芽採取時 ; 1000倍(常温30分), 1000倍(常温16~24時間) ; 浸漬処理 ②挿し芽直後 ; 1000倍<1.5L/育苗培土5L>, 1000倍<3L/育苗培土5L> ; 灌注処理	実	実) [苗の発根促進、活着促進] ・挿し芽採取時 1000倍(常温30分) 浸漬処理。 ・挿し芽直後 1000倍<1.5L/育苗培土5L> 灌注処理。
6. シベレリン液(水溶) +4-CPA液 シベレリン 0.5% (3.1%) 4-CPA 0.15% [協和発酵工業]	メロン	適用性 新規	茨城園研 熊本農研 宮崎総農試 (3)	[着果促進、果実肥大促進] 開花前日~翌日 ; シベレリン 200ppm+4-CPA 50倍 ; 子房噴霧	継	継) 効果の確認。

F. 過年度野菜関係生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
1. NBS-136液 カイネン、インドール酢酸等 [日本バイオシステム研究所]	イチゴ	作用性 新規	福岡農総試 (1)	[品質向上、収量への影響] ①9/下から2週間おき; 40mL<600L>;土壌灌注 ②9/下から2週間おき; 40mL<600L>;土壌灌注 (液肥添加) ③9/下から1週間おき土壌灌注と 葉面散布を交互に処理(液肥添 加); 土壌灌注:40mL<600L>, 葉面散布:10mL<200L>	—	
2. NSH-1液 シイタケ菌糸体抽出物 1% [野田食菌工業]	ニンニク	適用性 継続	青森畑園試 (1)	[品質向上(肥大促進)] ①鱗片分化期以降 10日おき 2 回散布 ②鱗片分化期以降 7日おき 3 回散布 ;500倍<100L> ;葉面散布 対) サンキャッチ液剤 300倍 1回散布	継	・前回判定どおり。

G. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
1. BA液 ベンジルアミンリン 3% [クマヤ化学工業]	キク	適用性 継続	福岡農総試 愛知東三河 長崎総農試 鹿児島農試 (4)	[親株栽培における側枝への腋芽 の着生] 摘心時 ;2000, 4000, 6000倍<100L> ;茎葉散布	実 継	実) [親株栽培における側枝への腋 芽の着生促進] ・摘心時 2000~4000 倍<100L/10a> 茎葉処理。 注) 無側枝性が強く発現する品 種及び高温期の栽培では効果 が劣る場合がある。 継) 品種と効果の確認。
2. DAZ-85顆粒水和 タミジット® 85% [シヨイコンサルティンク®]	キク (切花)	適用性 継続	長野野菜花き試 島根農試 広島農技 鹿児島農試 (4)	[花首伸長抑制] ①発蕾期 1 回処理 ;1000, 1500倍 ;茎葉散布 対) ビーサン水溶剤 1000倍 ②発蕾期及び摘蕾期 2 回処理 ;1000, 1500倍 ;茎葉散布	実	実) [花首伸長抑制] ・発蕾期 1 回処理または発蕾期及 び摘蕾期 2 回処理 1000~1500 倍<50L/10a> 茎葉処理。
	キク (ポットマ ム)	適用性 新規	愛知農総試 奈良農技 福岡農総試 (3)	[小型化による草姿向上] ①摘芯10日後または定植3日後 1 回処理 ;200, 400倍 ;茎葉散布 対) ビーサン水溶剤 1000倍 ②摘芯10日後または定植3日後及 びその30日後 2 回処理 ;400倍 ;茎葉散布	継	継) 効果の確認。

G. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
3. FS-2000粉 水溶性低分子キトサン 100% [岡山応用化学]	ツバキ	適用性 新規	神奈川農総研 岡山農試 福岡農総試 (3)	[挿し芽の発根促進、根の伸長 促進] 挿し穂時 ; 0.1%, 0.3% ; 挿し芽切断基部に塗布 (キトサン 溶液1Lに対し補助剤を300~ 400g添加し、18~80dPa・sの粘 度にしたもの) 対) オキベロン粉	継	継) 効果の確認。
4. KUH-833FLフロアブル プロヘキサシモンカルシウム塩 1% [クマイ化学工業]	キ	適用性 継続	長野野菜花き試 愛知東三河 広島農技 (3)	[花首伸長抑制] ①発蕾期及び摘蕾期 2回処理 ; 200倍<50L> ; 茎葉処理 参) ビタミン水溶 1000倍<50L> ②摘蕾期 1回処理 ; 200倍<50L> ; 茎葉処理 参) ビタミン水溶 1000倍<50L>	実 継	実) [白色系及び黄色系品種: 花首・ 伸長抑制] ・摘蕾期 1回処理または発蕾期及 び摘蕾期 2回処理 200~500倍<50~100L/10a> 茎葉処理。 継) 濃度、散布水量と効果の年次 変動の確認。
	キ	適用性 継続	長野野菜花き試 愛知東三河 広島農技 (3)	[花首伸長抑制] ①発蕾期及び摘蕾期 2回処理 ; 200, 500倍<100L> ; 茎葉処理 対) ビタミンフロアブル 200倍<50L> ②摘蕾期 1回処理 ; 200, 500倍<100L> ; 茎葉処理 対) ビタミンフロアブル 200倍<50L>		
5. NSH-1液 シタケ菌糸体抽出物 1% [野田食菌工業]	パシヤー	作用性 継続	奈良農技 (1)	[生育期の徒長防止、着蕾・開 花への影響] 50倍 ; 葉面散布 (処理時期、散布回数、散布量の 検討)	一	
6. PB-50細粒 penicillium bilaii 1.0×10 ⁵ cfu/g [保土谷化学工業]	シラメン	適用性 継続	茨城農総研 群馬農技 神奈川農総研 愛知農総試 (4)	[初期生育促進] 鉢上時 ; 2, 3, 4g/L ; 土壌混和処理	継	継) 効果、葉害の確認。
7. DNK-01液 シアナト 13% [電気化学工業]	サクラ	適用性 新規	<山形園試> <埼玉深谷> (2)	[休眠打破による発芽促進] 休眠期 (促成開始前) ; 30倍 ; ①切り枝全面散布 ②切り枝浸漬 対) CX10液 20倍	一	
8. S-327D液 ウコンゾーAP 0.025% [住友化学工業]	ヒベリカム	適用性 新規	長野南信試(2) (2)	[伸長抑制] 生育期 3回散布 ; 5, 10, 20ppm ; 茎葉処理	継	継) 効果の確認。

平成16年度春夏作芝関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成16年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年12月2日(木)に池之端文化センターにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者14名、委託関係者47名ほか、計70名の参集を得て、除草剤20薬剤(143点)、生

育調節剤4薬剤(30点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成16年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法等	判定	内容
1. AEH-002顆粒水和 イソクサフロリン 10% [ハイエル クロップ サイエ ンス]	ノシハ	適用性 継続	北陸草地環境研 奥武蔵CC 南長野GC 新中国G研 宮崎CC (5)	[一年生広葉雑草] 雑草発生前 0.01, 0.015, 0.02g <200-300> ; 土壌処理 ; イソフルメト 0.03g<200-300>	実・継	実) [(コライシハ、ノシハ)一年生広葉雑 草] ・ 芝生育期、雑草発生前。 ・ 0.01~0.02g<200~300mL>。 ・ 土壌処理。
	ノシハ	適用性 継続	北陸草地環境研 奥武蔵CC 南長野GC 新中国G研 宮崎CC (5)	[一年生広葉雑草] 雑草発生前 ; 0.005, 0.01, 0.015g<200-300> ; 土壌処理 ; イソフルメト 0.03g<200-300>	継	・ 芝生育期、雑草発生前(3葉期 まで)。 ・ 0.01~0.015g<200~300mL>。 ・ 土壌処理。 ・ 低薬量での効果の確認。 ・ 倍量薬害試験での確認。 ・ 連用試験での確認。 ・ 実証試験での確認。
2. BAH-043顆粒水和 新規化合物 71.4% [BASFアグロ]	コウライシ ハ	作用性 新規	植調研究所 西日本G研 (2)	[広葉雑草(多年生シバガキを除く)] 雑草生育期 (3~5葉期) ; 0.015, 0.03, 0.06, 0.12g <100-200> ; 茎葉処理 ; フロックスラムフロアブル 0.05mL<150-200>	継	継) ・ 効果、薬害の確認。 ・ 成分未公開。
	ノシハ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[広葉雑草(多年生シバガキを除く)] 雑草生育期 (3~5葉期) ; 0.015, 0.03, 0.06, 0.12g <100-200> ; 茎葉処理 ; フロックスラムフロアブル 0.05mL<150-200>		
	ケンタッキー フルーグ ラス	作用性 新規	東日本G研 (1)	[広葉雑草(多年生シバガキを除く)] 雑草生育期 (3~5葉期) ; 0.015, 0.03, 0.06, 0.12g <100-200> ; 茎葉処理 ; フロックスラムフロアブル 0.05mL<150-200>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法等	判 定	内 容
BAH-043顆粒水和	コウライシ ハ [*]	適用性 新規	太平洋C美野里C 大阪食とみどり 門司GC (3)	[広葉雑草(多年生ナメタギを除く)] 雑草生育期 ; 0.03, 0.045, 0.06g<100-200> ; 茎葉処理 ; フロアスラムフロア [®] ル 0.05ml<150-200>		
	ノシハ [*]	適用性 新規	リハ [*] 富士CC 花屋敷GC 西日本G研 (3)	[広葉雑草(多年生ナメタギを除く)] 雑草生育期 ; 0.03, 0.045, 0.06g<100-200> ; 茎葉処理 ; フロアスラムフロア [®] ル 0.05ml<150-200>		
	ケンタッキー フ [®] ルーグ [®] ラス	適用性 新規	泉ハークタンGC グランド [®] イ那須GC36 那須ナセリー (3)	[広葉雑草(多年生ナメタギを除く)] 雑草生育期 ; 0.03, 0.045, 0.06g<100-200> ; 茎葉処理 ; フロアスラムフロア [®] ル 0.05ml<150-200>		
3. DEH-118顆粒水和 イソキサベン 60% フロアスラム 4% [タウケミカル日本]	ケンタッキー フ [®] ルーグ [®] ラス	適用性 新規	札幌国際CC 泉ハークタンGC グランド [®] イ那須GC36 那須ナセリー (4)	[広葉雑草] 雑草発生初期 ; 0.03, 0.04, 0.05g<150-200> ; 土壌処理 ; イン [®] ールDF 0.04g<200>	実・ 継	従来通り(ケンタッキーフ [®] ルーグ [®] ラスは継続) 実) [(コウライシハ [*] 、ノシハ [*]) 広葉雑草] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで). ・ 0.03~0.05g<150~200mL>. ・ 土壌処理. 継) ・ ケンタッキーフ [®] ルーグ [®] ラスでの効果、薬害 の確認. ・ 実証試験での確認.
4. DH-023顆粒水和 ベンソレート 30% [日本曹達]	ベントグ [®] ラス	適用性 継続	ブラッサム [®] ーテン グランド [®] イ那須GC36 東日本G研 関西G研 (4)	[一年生イネ科雑草(スズメノカタビラ [®])] 雑草発生初期 ; 0.15, 0.2, 0.3g<100-200> ; 茎葉処理	実・ 継	実) [(ベントグ [®] ラス)スズメノカタビラ [®]] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで). ・ 0.2~0.3g<100~200mL>. ・ 茎葉処理. 継) ・ 低薬量での効果の確認. ・ 倍量薬害試験での確認. ・ 連用試験での確認. ・ 実証試験での確認.
5. DH-024顆粒水和 フルバ [®] キム 50% [日本曹達]	コウライシ ハ [*]	適用性 継続	ブラッサム [®] ーテン 植調研究所 浜松シサイト [®] GC 新中国G研 門司GC (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 ; 0.15, 0.2, 0.3g<200-300> ; 土壌処理 ; ウエイアップ [®] フロア [®] ル 0.5g<200-300>	実・ 継	実) [(コウライシハ [*] 、ノシハ [*]) 一年生雑 草] ・ 芝生育期、雑草発生前. ・ 0.15~0.3g<200~300mL>. ・ 土壌処理. 継) ・ 倍量薬害試験での確認. ・ 連用試験での確認. ・ 実証試験での確認.
	ノシハ [*]	適用性 継続	ブラッサム [®] ーテン 佐野GC リハ [*] 富士CC 花屋敷GC 門司GC (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 ; 0.15, 0.2, 0.3g<200-300> ; 土壌処理 ; ウエイアップ [®] フロア [®] ル 0.5g<200-300>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法等	判 定	内 容
6. FN-502顆粒水和 カルフェントラゾ・ンエチル 36.5% [石原産業]	ヘントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 宇都宮大学 関西G研 新中国G研 (4)	[コケ類] コケ類生育期 ; 0.03, 0.04, 0.06g 0.03g×2回(10~14日後) 0.03g×3回(10~14日後) <100~200> ; 茎葉処理 ; グラッチェ顆粒水和剤 0.04g<100~200>	実・ 継	従来通り(ヘントグラスは継続) 実) [(コウライハ、ノシハ)一年生広葉雑 草] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで). ・ 0.015~0.02g<100~200mL>. ・ 茎葉処理. 継) ・ ヘントグラスでのキノコケに対する効 果、薬害の確認. ・ コウライハ、ノシハでの草種と処理時 期について. ・ 倍量薬害試験での確認.
7. FU-176水和 有機銅(8-ヒドロキシノ ン銅) 80% [アグロカネヨウ]	ヘントグ ラス	適用性 継続	ブラザムカ・テン 東日本G研 奥武蔵CC 浜松・サイト・GC 関西G研 新中国G研 (6)	[コケ類(キノコケ)] コケ類生育期 ; 2.5g 2.5g×2回(再増殖始または14 日後) 2.5g×3回(再増殖始または14 日後) <200~300> ; 茎葉処理	実・ 継	実) [(ヘントグラス)キノコケ] ・ 芝生育期、 キノコケ発生初期~生育期. ・ 10~14日間隔の2~3回処理. ・ 2.5g<200~300mL>. ・ 茎葉処理. [ヘントグラス]藻類] ・ 芝生育期、藻類発生前. ・ 10~14日間隔の2回処理. ・ 2.5g<200~300mL>. ・ 茎葉処理. 継) ・ キノコケに対する効果と処理時期 の確認. ・ 倍量薬害試験での確認.
8. GG-160乳 ブタミス 80% [日本ク・リーアント・カ・ テン]	コウライシ ハ	適用性 継続	泉ハークワンGC 植調研究所 浜松・サイト・GC 東広野GC 西日本G研 (5)	[一年生イネ科雑草] 雑草発生前 ; 0.3, 0.45, 0.6ml<250~300> ; 土壌処理 ; 一任	実・ 継	実) [(コウライハ、ノシハ)一年生イネ科 雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前. ・ 0.3~0.6ml<250~300mL>. ・ 土壌処理. [(コウライハ、ノシハ)一年生雑草(キ ノコケは除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前. ・ 0.6~1.2ml<250~300mL>. ・ 土壌処理. 継) ・ コウライハ、ノシハにおける低薬量 での効果の確認.
9. HCW-001CE chloroprotham (IPC) 50% [保土谷化学工業]	コウライシ ハ (連用)	作用性 新規	植調研究所 新中国G研 (2)	[連用薬害] H16春→H16秋→H17春→H17秋 雑草発生初期 ; 0.8ml<200~300> ; 土壌処理	継	継) ・ 効果、薬害の確認. ・ 連用試験の継続.
	ノシハ (連用)	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] H16春→H16秋→H17春→H17秋 雑草発生初期 ; 0.8ml<200~300> ; 土壌処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・ml<水量ml>/m ² ;処理方法等	判 定	内 容
HCW-001CE	コウライシ ハ [°]	適用性 新規	東日本G研 佐野GC 東広野GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[ス [°] メノカビ [°] ラ] 雑草発生初期 ;0.4, 0.6, 0.8ml<200-300> ;土壌処理 ;ア [°] ン [°] ン液剤 1.0ml<200-300>		
	ノシハ [°]	適用性 新規	ク [°] ランデ [°] イ那須GC36 東日本G研 南長野GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[ス [°] メノカビ [°] ラ] 雑草発生初期 ;0.4, 0.6, 0.8ml<200-300> ;土壌処理 ;ア [°] ン [°] ン液剤 1.0ml<200-300>		
10. HOK-9801水和 デ [°] ルクロ [°] ル 50% イソキサ [°] ベン 5% [北興化学工業, トクヤ マ]	ケンタッキー ブ [°] ルグ [°] ラス (連用)	作用性 継続	植調研究所 那須ナ [°] セ [°] リー (2)	[連用薬害] H14秋→H15春→H15秋→H16春 雑草発生前 ;0.4g<200-300> ;土壌処理	実 継	実) [(コウライシハ [°] 、ノシハ [°] 、ケンタッキーブ [°] ルグ [°] ・ラス、ベン [°] トグ [°] ラス) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前. ・ 0.2~0.4g<200~300ml>. ・ 土壌処理. 注) ベン [°] トグ [°] ラスはグ [°] リーンを除く. 継) ・ 倍量薬害試験での確認. ・ 実証試験での確認.
11. HW-013微粒 MCPPナ [°] リウム 3% [日 本グ [°] リー [°] ンアント [°] カ [°] ー デン]	コウライシ ハ [°]	適用性 継続	東日本G研 大阪食とみどり 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生広葉雑草, ク [°] ロー [°] ハ [°] ー, ス [°] ギ [°] ナ] 雑草生育期 ;10, 15, 20g ;茎葉処理 ;MCPP液剤 0.5ml<200>	実 継	実) [(コウライシハ [°]) 一年生広葉雑草, ク [°] ・ロー [°] ハ [°] ー, ス [°] ギ [°] ナ] ・ 芝生育期、雑草生育期. ・ 10~20g. ・ 茎葉処理. 継) ・ 倍量薬害試験での確認. ・ ス [°] ギ [°] ナに対する効果の確認.
12. KNW-504顆粒水和 フルフェナ [°] ゼット 60% [呉羽化学工業, アク [°] ロ カシヨウ]	コウライシ ハ [°]	適用性 継続	ブ [°] ラッサムカ [°] ーデン 太平洋C美野里C 埼玉公園緑地 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 ;0.075, 0.1g<200-300> ;土壌処理	実 継	実) [(コウライシハ [°]) 一年生イネ科雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前. ・ 0.075~0.1g<200~300ml>. ・ 土壌処理. 継) ・ 発生初期処理の効果、薬害の確 認. ・ 発生前処理の低薬量での年次変 動の確認. ・ 連用試験での確認.
	コウライシ ハ [°]	適用性 新規	太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] 雑草発生初期 ;0.075, 0.1g<200-300> ;土壌処理		
13. LNS-001顆粒水和 フルメス [°] フロ [°] ン 50% [エス [°] ・デ [°] イー [°] ・エス ハ [°] イテッ ク]	コウライシ ハ [°] (連用)	作用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] H15秋→H16春→H16秋→H17春 雑草発生初期 ;0.06g<100-200> ;茎葉処理	実 継	実) [(コウライシハ [°] 、ノシハ [°]) 広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生初期. ・ 0.03~0.06g<100~200ml>. ・ 茎葉処理. 継) ・ 倍量薬害試験での確認. ・ 連用試験の継続. ・ 実証試験での確認.
	ノシハ [°] (連用)	作用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] H15秋→H16春→H16秋→H17春 雑草発生初期 ;0.06g<100-200> ;茎葉処理		
	コウライシ ハ [°]	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[多年生広葉雑草] 雑草発生初期 ;0.03, 0.045, 0.06g<100-200> ;茎葉処理 ;イン [°] ブ [°] ー [°] ルDF 0.04g<100-200>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法等	判 定	内 容
LNS-001顆粒水和	ノシハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[多年生広葉雑草] 雑草発生初期 ; 0.03, 0.045, 0.06g<100-200> ; 茎葉処理 ; インパードDF 0.04g<100-200>		
14. NOJ-120顆粒水和 トリフロキシスルフロナトリウム塩 72% [シンジエンタ ジャパン]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[チガヤ] 雑草生育期 ; 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ; 茎葉処理	実 ・ 継	(チガヤに対する効果は継続) 実) [(コウライシハ、ノシハ) 一年生雑草、 ヒメクサ] ・ 芝生育期、雑草発生初期～生育 期 (5 葉期まで). ・ 0.003～0.006g<150～250mL>. ・ 茎葉兼土壌処理. [(コウライシハ、ノシハ) スズメノヒエ類] ・ 芝生育期、雑草生育期. ・ 0.0045～0.006g <150～200mL>. ・ 茎葉処理. 継) ・ チガヤに対する効果について. ・ スズメノヒエ類に対する低薬量での効 果の確認. ・ 倍量薬害試験での確認.
	ノシハ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[チガヤ] 雑草生育期 ; 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ; 茎葉処理		
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[スズメノヒエ] 雑草生育期 ; 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ; 茎葉処理		
	ノシハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[スズメノヒエ] 雑草生育期 ; 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ; 茎葉処理		
15. SFC-0401粉 ヒナキ葉粉末 [住友林業]	コウライシ ハ	作用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] 雑草発生前 ; 500, 800, 1000g<1000> ; 土壌処理	—	
	ノシハ	作用性 新規	東日本G研 (1)	[一年生雑草] 雑草発生前 ; 500, 800, 1000g<1000> ; 土壌処理		
16. SL-236L乳 フルシネップ P 17.5% [石原産業]	ノシハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[メリケンカキヤ, (チガヤ等)] 雑草生育期 ; 0.1, 0.15, 0.2ml<100-150> ; 茎葉処理	継	継) ・ 効果、薬害の確認. ・ 使用場面について.
17. SYJ-130 (CG-119) 乳 メトラクロール 45% [シンジエンタ ジャパン]	コウライシ ハ (連用)	作用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] H15春→H15秋→H16春→H16秋 雑草発生前 ; 0.7ml<200-300> ; 土壌処理	実 ・ 継	従来通り 実) [(コウライシハ、ノシハ) 一年生イネ科 雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前. ・ 0.5～0.7ml<200～300mL>. ・ 土壌処理. 継) ・ 倍量薬害試験での確認. ・ 連用試験の継続.
	ノシハ (連用)	作用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] H15春→H15秋→H16春→H16秋 雑草発生前 ; 0.7ml<200-300> ; 土壌処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 〔対象雑草:ねらい〕 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法等	判 定	内 容
18. YS-034粒 ブタミス 1% DCBN 0.5% (N-P-K:18-6-7) 〔ヤマ産業〕	コウライシ ハ (倍量)	作用性 新規	植調研究所 新中国G研 (2)	〔倍量薬害〕 雑草発生前 ; 60, 120g ; 土壌処理	継(継)	・ 効果、薬害の確認。
	コウライシ ハ	適用性 新規	泉バーカウンGC 宇都宮大学 佐野GC 大阪食とみどり 新中国G研 西日本G研 (6)	〔一年生雑草〕 雑草発生前 ; 40, 50, 60g ; 土壌処理 ; ケアール乳剤 0.9ml<250>		
19. ベンテイメタリンフロア ベンテイメタリン 45% 〔BASFファーマ〕	ハ・ミュー ダ・グラス	適用性 新規	ブラッサム・デー 静岡C浜岡C 花屋敷GC 浜松サイトGC 三河CC 日吉原CC (3)	〔一年生雑草(科を除く)〕 雑草発生前 ; 0.4, 0.6, 0.9ml<200-300> ; 土壌処理 ; ケアール水和 0.1g<200-300>	実 継	〔コウライシハ、ノシハ、ハ・ミューダ・グラ ・ス〕一年生雑草(科を除く)〕 ・ 芝生育期、雑草発生前。 ・ 0.4~0.9g<200~300mL>。 ・ 土壌処理。 ・ ハ・ミューダ・グラスに対する倍量薬 害試験での確認。 ・ ハ・ミューダ・グラスに対する連用試 験での確認。
20. BS-1粒 ベンテイメタリン 1.1% (N-P-K:16-16-8) 〔エス・ディー・エス・ハイテク〕	コウライシ ハ (倍量)	作用性 新規	ブラッサム・デー 新中国G研 (2)	〔倍量薬害〕 雑草発生前 ; 40, 80g ; 土壌処理	継(継)	・ 効果、薬害の確認。
	ノシハ (倍量)	作用性 新規	ブラッサム・デー 新中国G研 (2)	〔倍量薬害〕 雑草発生前 ; 40, 80g ; 土壌処理		
	コウライシ ハ	適用性 新規	ブラッサム・デー 新中国G研 西日本G研 (3)	〔一年生雑草(科を除く)〕 雑草発生前 ; 20, 40g ; 土壌処理 ; テマックス粒 30g		
	ノシハ	適用性 新規	ブラッサム・デー 新中国G研 西日本G研 (3)	〔一年生雑草(科を除く)〕 雑草発生前 ; 20, 40g ; 土壌処理 ; テマックス粒 30g		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 ;薬量g・ml<水量ml>/m ² ;処理方法等	判 定	内 容
1. CG-186マイクロエマルジョン トリネキサバクエチル 10.4% [シシエンタジヤハン]	コウライシハ [*]	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[草丈抑制による刈込軽減] 芝生育期(生育旺盛期) ; 0.035, 0.05, 0.075ml<50>, 0.035, 0.05, 0.075ml<100> ; 茎葉処理 ; フリモックス液 0.05ml<150-200>	実 継	実) [(コウライシハ、シハ、ヘントグラス、ケンタッキーブルーグラス、パーミュータグラス) 生育抑制効果による刈込み軽減] ・ 芝生育期. ・ コウライシハ [*] ; 0.035~0.075mL <50~100mL>、 0.05~0.1mL <150~250mL>、 ケンタッキーブルーグラス; 0.05~0.15mL <50~100mL>、 0.1~0.2mL <150~250mL>、 シハ [*] ; 0.05~0.1mL <50~250mL>、 ヘントグラス; 0.07~0.14mL <150~250mL>、 0.05~0.075mL <50~100mL>、 パーミュータグラス; 0.07~0.14mL、 <150~250mL>。 ・ 茎葉処理。
	ケンタッキーブルーグラス	適用性 新規	泉パークタウンGC クランティ那須GC36 東日本G研 (3)	[草丈抑制による刈込軽減] 芝生育期(生育旺盛期) ; 0.05, 0.1, 0.15ml<50>, 0.05, 0.1, 0.15ml<100> ; 茎葉処理 ; フリモックス液 0.1ml<150-200>		継) ・ コウライシハ、ケンタッキーブルーグラス、ヘントグラスに対する低薬量、低水量での生育抑制効果の年次変動の確認。
	コウライシハ [*]	適用性 新規	東日本G研 植調研究所 新中国G研 (3)	[芽数増加、根量増加] 芝生育期(生育旺盛期) ; 0.035, 0.05, 0.075mL <100-200> ; 茎葉処理	実 継	実) [(ヘントグラス) 芽数増加、根量増加] ・ 芝生育期. ・ 0.05~0.1mL<100~200mL>。 ・ 茎葉処理。
	ヘントグラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 (3)	[芽数増加、根量増加] 芝生育期(生育旺盛期) ; 0.05, 0.075, 0.1mL <100-200> ; 茎葉処理	継)	・ コウライシハ、ケンタッキーブルーグラスでの効果の確認。
	ケンタッキーブルーグラス	適用性 新規	泉パークタウンGC 東日本G研 那須ナゼリー (3)	[芽数増加、根量増加] 芝生育期(生育旺盛期) ; 0.05, 0.1, 0.15mL <100-200> ; 茎葉処理		

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量mL>/m ² ;処理方法等	判 定	内 容
2. KUH-833FH707 [®] ル ブ [®] ロベキサ [®] オンカルシウム塩 25% [理研グリーン, クミアイ化 学工業]	ベントグ ラス	適用性 継続	宇都宮大学 静岡浜岡 関西G研 (3)	[草丈抑制による刈込軽減] 芝生育盛期 ; 0.02, 0.04, 0.06mL <100-200> ; 茎葉処理 ; プリマックス液 0.07mL<150-200>	実 継	実) [(コウライシハ [®] 、ノシハ [®] 、ケンタッキー [®] ル ブ [®] ラス、ベントグ [®] ラス) 生育抑制効果による 刈込み軽減] (ベントグ [®] ラス) ・ 芝生育期. ・ 0.02~0.06mL<100~200mL>. ・ 茎葉処理. (コウライシハ [®] 、ノシハ [®]) ・ 芝生育期. ・ スポート [®] ターフ等刈込み回数の多い 場合: 0.04~0.08mL→0.04~ 0.08mL <200mL>. ・ 7、公園、堤とう等刈込み回数の 少ない場合: 0.3~0.7mL <200mL>. ・ 茎葉処理. (ケンタッキー [®] ルブ [®] ラス) ・ 芝生育期. ・ 0.04~0.08mL <200mL>. ・ 茎葉処理 継) ・ ケンタッキー [®] ルブ [®] ラスでの水量と効果 の確認. ・ コウライシハ [®] 、ノシハ [®] の低薬量2回処理 における効果の年次変動につい て ・ 実証試験での確認. ・ 翌年の芝に対する影響について.
	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 宇都宮大学 静岡浜岡 関西G研 (4)	[密度向上] 芝生育盛期 ; 0.04, 0.06mL<100-200> ; 茎葉処理	継	継) ・ 効果の確認.
3. KUH-913液 ビ [®] ス [®] リ [®] ハ [®] ク [®] ナトリウム塩 3% [理研グリーン, クミアイ化 学工業]	ケンタッキー ブ [®] ルブ [®] ラス	作用性 新規	宇都宮大学 (1)	[ス [®] メノカビ [®] ラに対する出穂抑制及 び密度低減] 芝生育期 ス [®] メノカビ [®] ラ出穂前~ 出穂初期 1ヶ月間隔 2~3回散 布 ; 0.1, 0.2, 0.4mL<100-200> ; 茎葉処理	実 継	従来通り(ケンタッキー [®] ルブ [®] ラスは継続) 実) [(ベントグ [®] ラス) ス [®] メノカビ [®] ラに対す る出穂抑制] ・ 芝生育期、ス [®] メノカビ [®] ラ出穂前. ・ 0.2mL<100~200mL>. ・ 茎葉処理.
	ケンタッキー ブ [®] ルブ [®] ラス	適用性 新規	札幌国際CC 宇都宮大学 鹿児島南農科 (3)	[ス [®] メノカビ [®] ラに対する出穂抑制及 び密度低減] 芝生育期 ス [®] メノカビ [®] ラ出穂前~ 出穂初期(4~7月) ; 0.2mL<100-200> ; 茎葉処理	継	継) ・ ケンタッキー [®] ルブ [®] ラスでの効果、薬害 の確認. ・ ベントグ [®] ラスでの処理時期と薬害の 確認、処理回数と密度低減効果 について.
4. NOK-1液 Enterobacter cloacae No.11-5株培 養ろ液(イントール酢酸 120μg/ml) [EKKアグサイエンス]	コウライシ ハ [®]	適用性 継続	東日本G研 植調研究所 新中国G研 西日本G研 (4)	[張り芝の発根促進] 張り芝直後及びその1週間後 ; 500, 1000, 2000倍<1000>	実 継	実) [根の生育促進] ・ 張り芝直後及びその1週間後. ・ 1000~2000倍<1000mL>. ・ 茎葉処理. 継) ・ 処理時期と効果の確認.

平成16年度牧野草地関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成16年度牧野草地関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年2月3日(木)に植調会館において開催された。

この検討会には、試験場関係者10名、委託関係者5名ほ

か、計24名の参集を得て、除草剤6薬剤(23点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成16年度 牧野草地関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] 処理時期 ; 薬量g・mL<水量L>/10a ; 処理方法等	判 定	内 容
1. NH-0077ロアフル ビ・ラフルフェンエチル 0.16% グリホサートイソプロピルアミン 塩 30% [日本農薬]	草地更新	適用性 継続	根釧農試 天北農試 (2)	[雑草全般] 耕起10日以前 雑草生育期 ; 400, 500mL<100L> ; 茎葉処理 対) ラウンドアップ 液 500mL<100L>	実	実) [草地更新; 雑草全般] ・ 耕起10日以前 雑草生育期 400~750mL/10a <100L/10a> 茎葉処理
	草地更新	適用性 継続	根釧農試 天北農試 (2)	[キジシ等] 耕起10日以前 雑草生育期 ; 400, 500mL<100L> ; 茎葉処理 対) ラウンドアップ 液 500mL<100L>		
2. ZK-122液 グリホサートカリウム塩 43% [シンジエンタシヤパン]	草地更新	適用性 継続	道立畜試 道立畜試滝川 (2)	[雑草全般] 耕起10日以前 雑草生育期 ; 300, 400, 500mL<25L> ; 茎葉処理 対) ラウンドアップ 液 500mL<50L>	実	実) [草地更新; 雑草全般] ・ 耕起10日以前 雑草生育期 300~500mL/10a <25~50L/10a(専用ノズル使用)> 茎葉処理
	草地更新	適用性 継続	岐阜畜産研 熊本草地畜産研 (2)	[雑草全般] 耕起10日以前 雑草生育期 ; 300, 400, 500mL<25L> ; 茎葉処理 対) ラウンドアップ ハイロード 液 500mL<50L>		
	草地更新	適用性 継続	道立畜試滝川 根釧農試 (2)	[73] 耕起10日以前 雑草生育期 ; 600, 750, 800mL<50L> ; 茎葉処理 対) ラウンドアップ 液 800mL<50L>	実	実) [草地更新; 73] ・ 耕起10日以前 雑草生育期 600~750mL/10a <50L/10a(専用ノズル使用)> 茎葉処理
	草地更新	適用性 新規 (H15) 適用性 継続	道立畜試 天北農試 (2) 道立畜試 天北農試 (2)	[リド・カリ・グ・ラス] 耕起10日以前 雑草生育期 ; 300, 500, 600, 800, 1000, 1500mL<50L> ; 茎葉処理 参) ラウンドアップ 液 500mL<50L>	継 続)	・ 効果、薬害の確認 (本年度の試験は、翌年の結果で 判定する)

A. 除草剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] 処理時期 ;薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
3. BAS-3510 (Na)L液 ベンタリオン 40% [日本草地畜産種子 協会]	ソルガム	適用性 継続	鹿児島畜試 (H15) 長野畜試 愛媛畜試 鹿児島畜試 (4)	[一年生広葉雑草] 生育期 広葉雑草3~6葉期 ; 100, 150mL<100L> ; 茎葉処理	継(継)	・効果、薬害の確認
4. DPX-16顆粒水和 チフェンス/フロンシチル 75% [日本草地畜産種子 協会]	ソルガム	適用性 新規 (H15)	鹿児島畜試 (1)	[一年生広葉雑草] 生育期 広葉雑草2~4葉期 ; 5, 7.5, 10g<100L> ; 茎葉処理	継(継)	・効果、薬害の確認
5. アラコール乳 アラコール 43% [日本草地畜産種子 協会]	ソルガム	適用性 新規	長野畜試 愛媛畜試 鹿児島畜試 (3)	[一年生雑草全般] 播種後出芽前 雑草発生前 ; 300, 600mL<100L> ; 土壌処理	継(継)	・効果、薬害の確認
6. YF-65L液 ジクワット/フロリト 7% バクコートジクワリト 5% [日本草地畜産種子 協会]	イネ科牧 草	適用性 新規	新潟畜産研 (1)	[一年生雑草全般] 生育期 雑草生育期 ; 600, 800, 1000mL<100L> ; 茎葉処理	継(継)	・使用場面等の再検討

日本帰化植物写真図鑑

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七／編著 B6判 548頁 本体価格4,300円

●帰化植物630余種を1,700余点のカラー写真で紹介。飼料作物畑の雑草害と対策も解説

全国農村教育協会
http://www.zennokyo.co.jp

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
TEL03-3833-1821 FAX03-3833-1665

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03)3832-4188 (代)
FAX (03)3833-1807

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電 話 (03)3833-1821 (代)
FAX (03)3833-1665
E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成17年3月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第38巻第12号

(送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)

「緑と稔りを約束する、石原の水田除草剤」



- 時代に先駆け環境にやさしい紙パックで登場!
フロアブルタイプの初・中期一発剤

キングダム®フロアブル
Lフロアブル

- どっしり、安定… しっかり、効くゾウ!!
抵抗性アゼナ類にも効果の初・中期一発剤

ウィードレス® 1キロ粒剤 A36 51

- 低コスト稲作に300mlボトルの初期剤登場!
頑固なイヌホタルイで困っている水田に最適!

ワンベスト®フロアブル

- コンパクトになってビッグな手応え!
抵抗性アゼナ類に卓効の初期一発剤

ワンオールS® 1キロ粒剤



製造 石原産業株式会社
販売 石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番30号
問合せ先 03-3230-7656

石原友の会 会員募集中!

ホームページ アドレス
<http://www.iskweb.co.jp/ibj/>

ミスターホームラン®は 決め手が3つ!

水稲用一発処理除草剤

一発で
キメる。



1キロ粒剤 75/1キロ粒剤 51

水稲用一発処理除草剤

一発で
キメる。



フロアブル/Lフロアブル

水稲用一発処理除草剤

パックで
キメる。



ジャンボ/Lジャンボ

水稲用一発処理除草剤

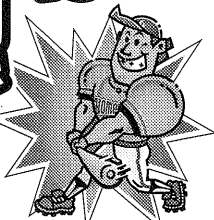
一発で
キメる。

ホームラン®

A1キロ粒剤 36
◎ 1キロ粒剤 51



水田除草は
ホームラン剤で
キメる!



M4-100

「低コスト」「省力」「安全」ニーズに応えるホームラン剤

- ノビエ2.5葉期まで効果がある(ジャンボ剤は2葉期まで)
- ノビエに対する効果がなが〜く続く
- 稲への安全性が高い

JAグループ
農協 | 自農 | 経済連



北興化学工業株式会社
〒103-8341 東京都中央区日本橋本石町4-4-20
ホームページアドレス <http://www.hokkochem.co.jp>

◎は登録商標

難防除雑草
対策の新製品

サラブレッド®
RXフロアブル

イッテツ®
フロアブル

期待の新製品

使いやすさの大本命

サラブレッド®フロアブル

ノビエ3葉期
まで使える

アピロイグル®

フロアブル

ポ〜んと手軽に

クラッシュ®EXジャンボ

安定した効果の
初中期一発剤

ドニチ1キロ粒剤

大好評の既存剤

ザ・ワン®フロアブル
1キロ粒剤

キックバイ1キロ粒剤

アワード®フロアブル

ロングゲット®フロアブル

シェリフ®1キロ粒剤

リーディング®

クラッシュ®1キロ粒剤

バトル®粒剤

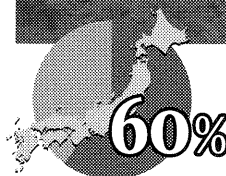
住化武田農業株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川一丁目16番3号



The miracles of science™

デュポン社が開発した
ベンスルフロンメチル「ロンダックス®」は、
日本の美味しい米作りと食の安全を支えています。



「ロンダックス®」は低薬量かつ1回の処理で除草ができる自然に
やさしい環境負荷低減型除草剤。

様々な有効成分と混合し、使いやすい薬剤として、日本における
水稲面積の約60%※の除草作業をお手伝いしています。

※平成16年度出荷実績

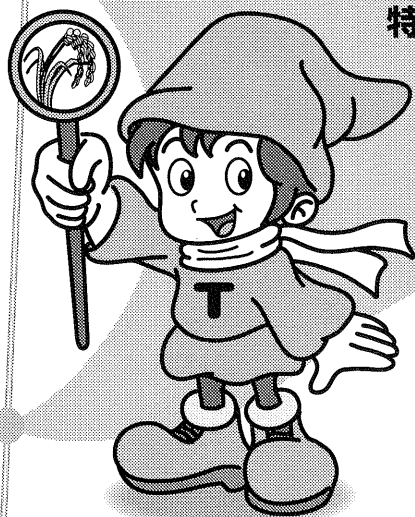


上記のマークがついている除草剤には
ロンダックス®(DPX-84)が含まれています。

デュポン ファーム ソリューション株式会社 〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー 電話 03-5521-8410 Fax.03-5521-2471 ®は米国デュポン社の登録商標です。

やっかいな雑草からしっかりガード!

3つの剤型で様々なニーズに適合します。



特長

1. 難防除雑草を含む広範囲の雑草に優れた効果
2. スルホニルウレア抵抗性のホタルイ類に対して高い効果
3. 畦畔からの侵入雑草にも効果が優れます。

新発売

水稲用 初・中期一発処理除草剤

テラガード®

250グラム・L250グラム(豆つぶ剤)
フロアブル・Lフロアブル
1キロ粒剤75・1キロ粒剤51

®:クミアイ化学工業(株)の登録商標

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 防除日誌を記載しましょう。



JAグループ

農協



経済連

自然に学び 自然を守る

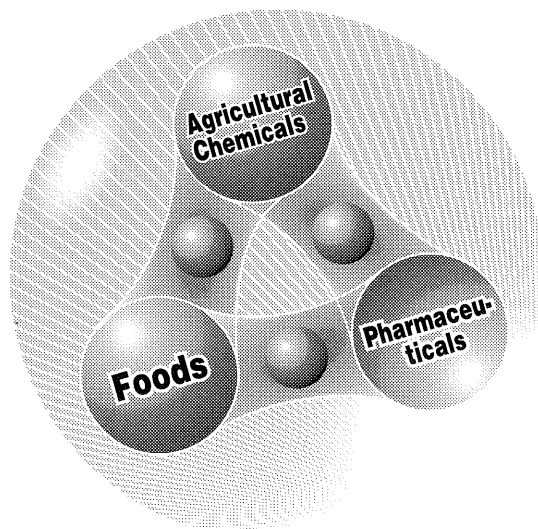
クミアイ化学工業株式会社

本社：東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL:03-3822-5036
<http://www.kumiai-chem.co.jp>

いのちの輝きを見つめる

Meiji

私たちは、夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、
世界の人々の心豊かなくらしに、貢献します。



天然物で確実除草

ハービー液剤®



明治製菓株式会社

104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
<http://www.meiji.co.jp/nouyaku>